

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

定価 **635円**
(本体605円)

『幾何的な折りアルゴリズム』の紹介

—折り紙とコンピュータの折りあいや、いかに?—

Introduction to "Geometric Folding Algorithms"
-How to Fold Origami Using a Computer?-

上原隆平

Uehara Ryuhei

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

キツネ Fox

ホアン・ティン・クエット

Hoang Tien Quyet

折り図 Diagrams

SHIBARAKU-HEAD

北條高史

Hojyo Takashi

つまみおり Information

第11回折紙探偵団

関西コンベンション情報

Updates on the 11th Origami
Tanteidan Kansai Convention



通巻 **119** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

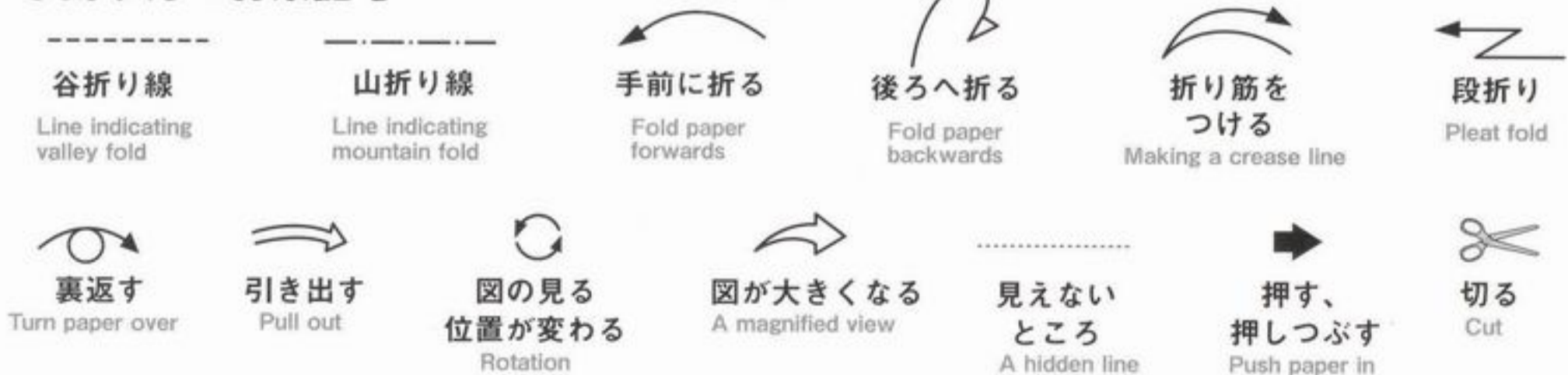
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



SHIBARAKU-HEAD

作: 北條高史 (P.22)

by Hojyo Takashi (P.22)

■前作から約10年、やっと改修版の基本構造がまとまってきました。その検討途中過程でできた頭部が本誌折り図ページに丁度合うということは、全身の図はどのくらいの量になることやら…。ちなみに表紙で背景にあるのは、改修版の4分の1構造からつくった胸像で、今回の折り図掲載作品とは細かい部分で異なります。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi



SHIBARAKU-HEAD: Hojyo Takashi

クローズアップ / Close-up

P.11 「幾何的な折りアルゴリズム」の紹介 — 折り紙とコンピュータの折りあいや、いかに? —

Introduction to "Geometric Folding Algorithms" - How to Fold Origami Using a Computer? -

上原隆平
Uehara Ryuhei

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 SHIBARAKU-HEAD
SHIBARAKU-HEAD

北條高史
Hojyo Takashi



P.34 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

キツネ
Fox

ホアン・ティン・クエット
Hoang Tien Quyét

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 知子の部屋 布施知子
Tomoko's Room Fuse Tomoko
変形六角箱
Elongated Hexagonal Box

P.8 おりがみ我楽多市 やまぐち真
Origami Odds and Ends Yamaguchi Makoto
寅ばこ
Tiger-Box

読み物 / Articles

P.14 日本折紙協会回想録 やまぐち真
Reminiscence of and Notes on NOA Yamaguchi Makoto
折り紙の理想を追求した人 長野耕平さん
Nagano Kohei: A Man with Idea of Origami

P.16 折紙図書館の本棚から 西川誠司
From the Bookshelves of the JOAS Library Nishikawa Seiji
収蔵資料あれこれ
From the Origami Library Archives

P.18 スキップで折紙散歩 前川 淳
Origami Sampo Skipping Every Other Step Maekawa Jun
とりあえずの、あとがき
The Tentative Postscript

P.35 ペーパーフォルダーの横顔
Paper Folders on File
取材: おりがみはうす
Kanazawa Takashi Origamihouse

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺 布施知子
Origami and Its Neighbors Fuse Tomoko

P.32 おりすじ 柏村卓朗
Orisuzi ("Fold-Creases") Kashiwamura Takuro

P.33 折紙三昧 西川誠司
Origami-Zanmai (This Origami and That) Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 つまみおり Rabbit Ear
第11回折紙探偵団関西コンベンション情報
Updates on the 11th Origami Tanteidan Kansai Convention

知子の部屋

布施知子
Fuse Tomoko

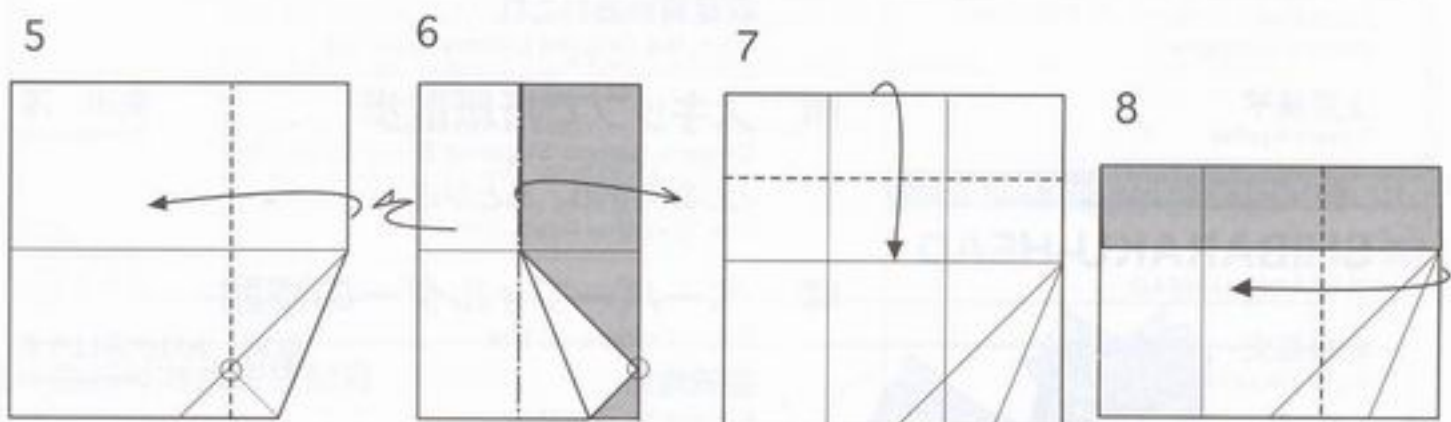
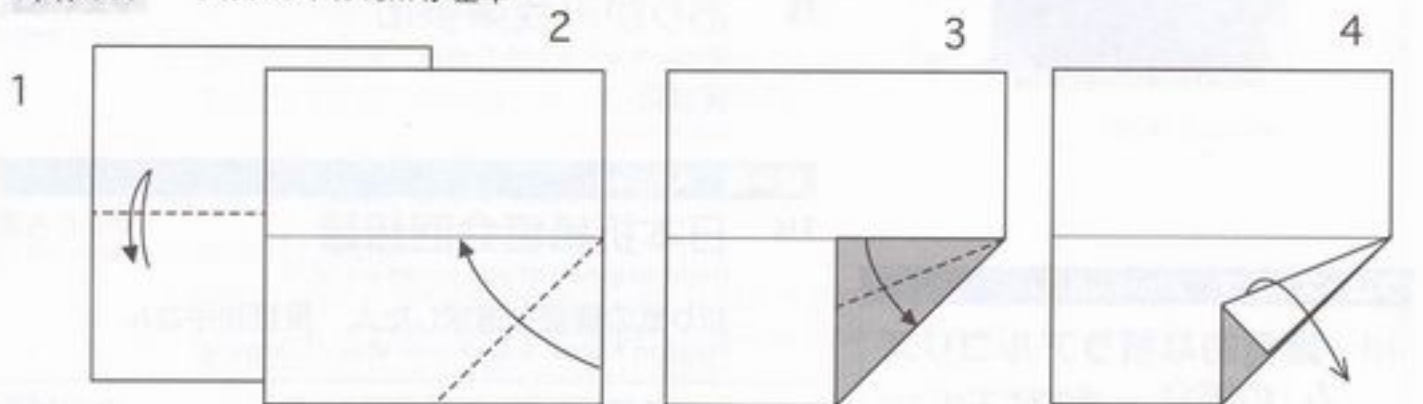
変形六角箱

Elongated Hexagonal Box

本体はふたより一辺が6mmくらい小さい正方形から折ります。エレガントな方法ではありませんが、無理に端を折り込むよりすっきりできるので、紙の大きさを考える方を選びました。

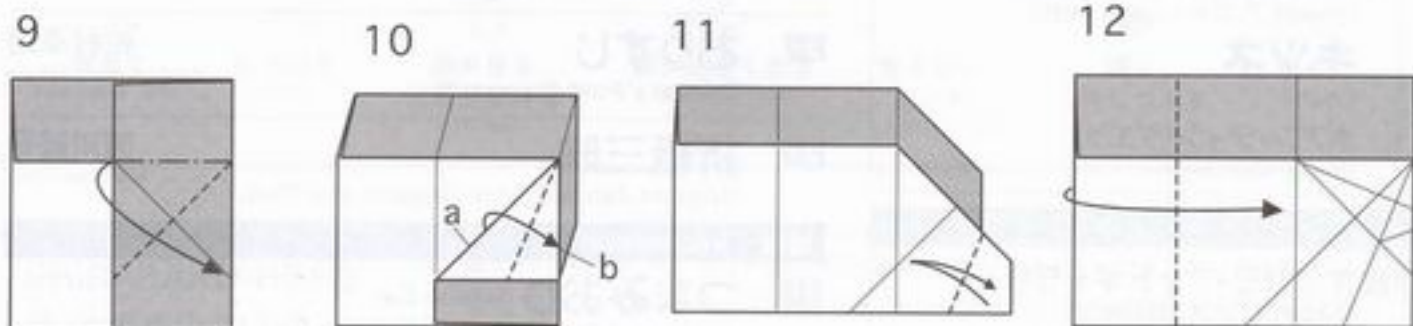


本体：A 14.4 × 14.4cm が基準



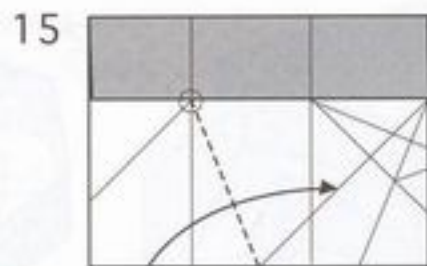
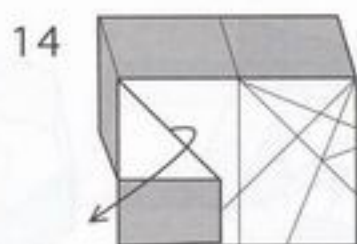
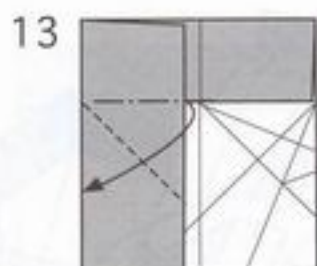
○印の交点で折る

折り線をつけたら開く



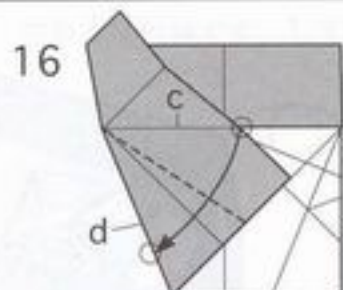
開いて a を b に合わせて折る

折り線をつけたら開く

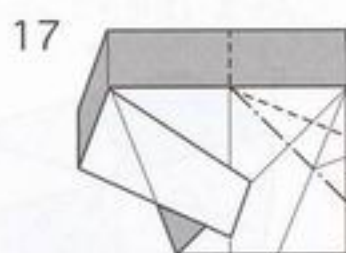


もどす

へりに合わせてかどを立てて折る



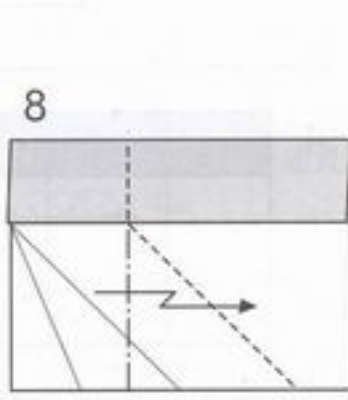
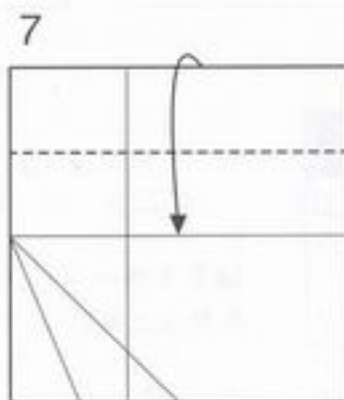
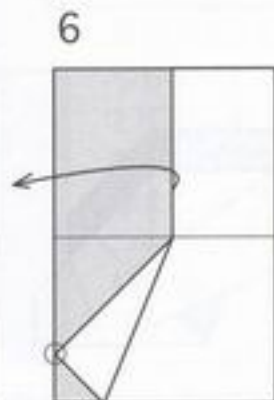
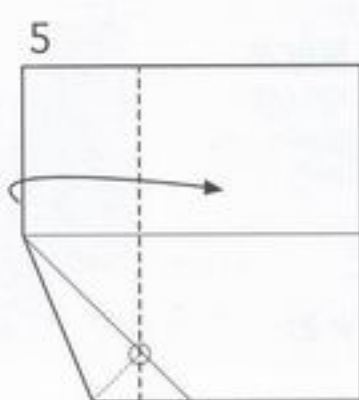
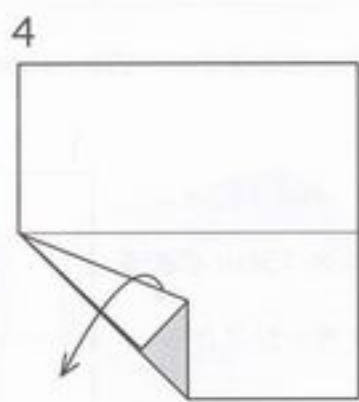
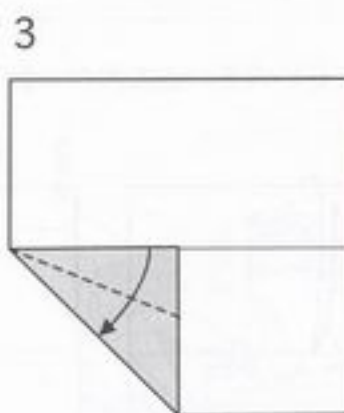
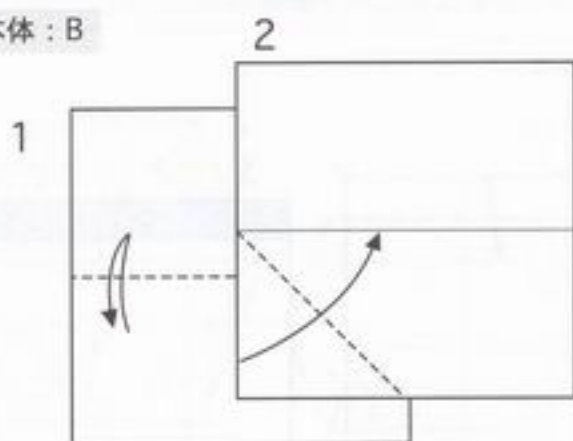
cをdに合わせて○印を合わせて折る



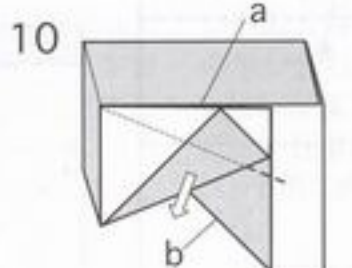
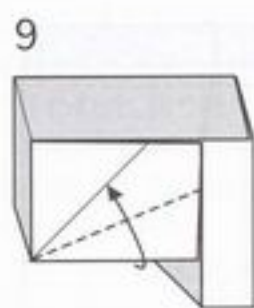
11の状態にもどす



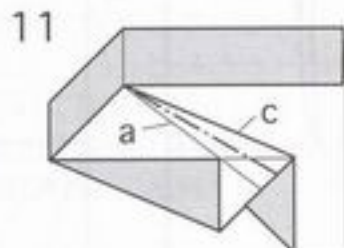
本体：B



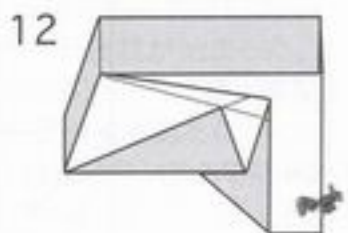
○印の交点で折る



aをbに合わせて折る

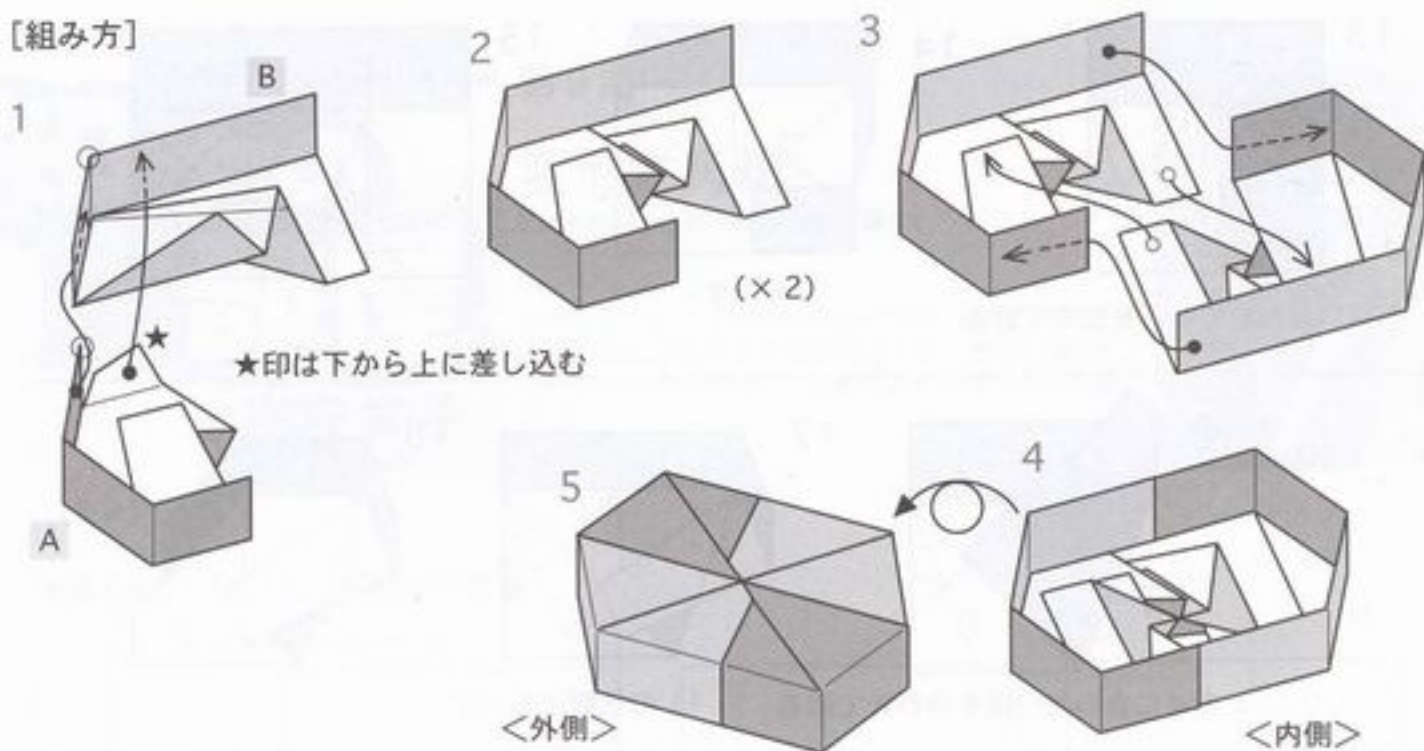


aをcに合わせて引き上げて折る

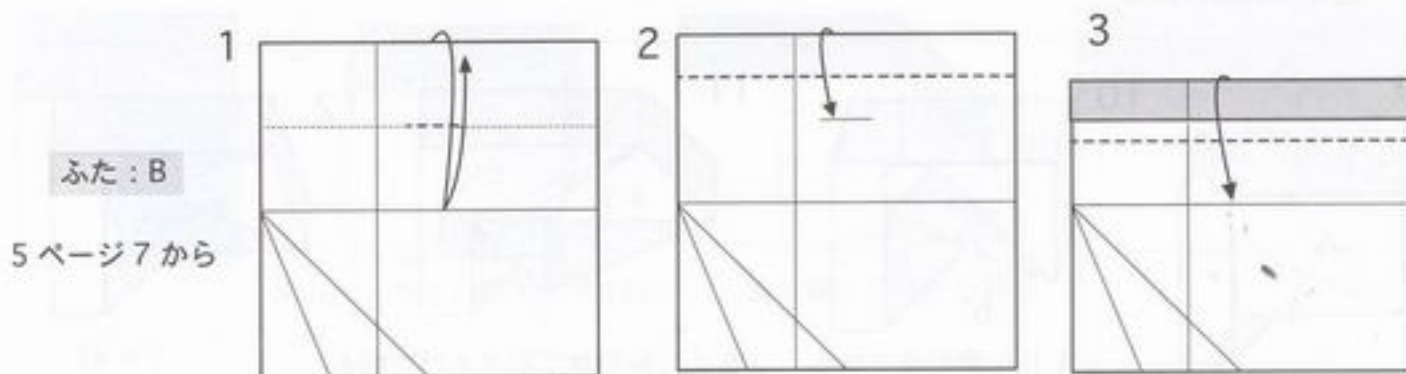
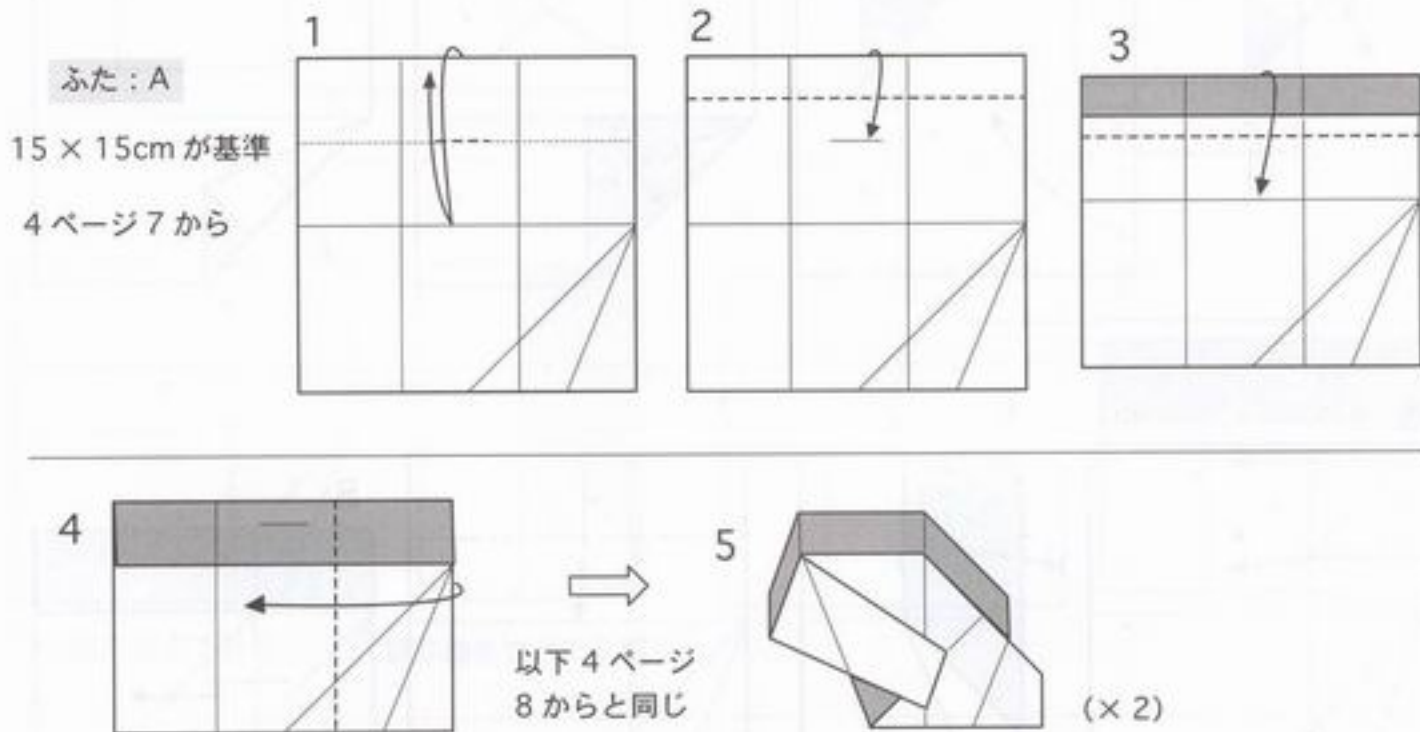


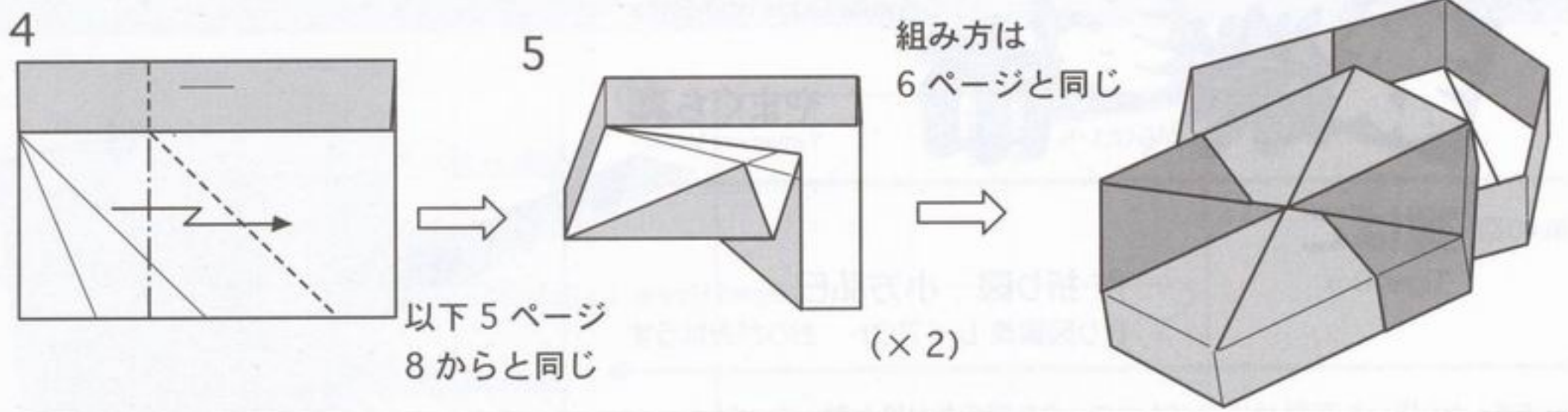
(x2)

[組み方]

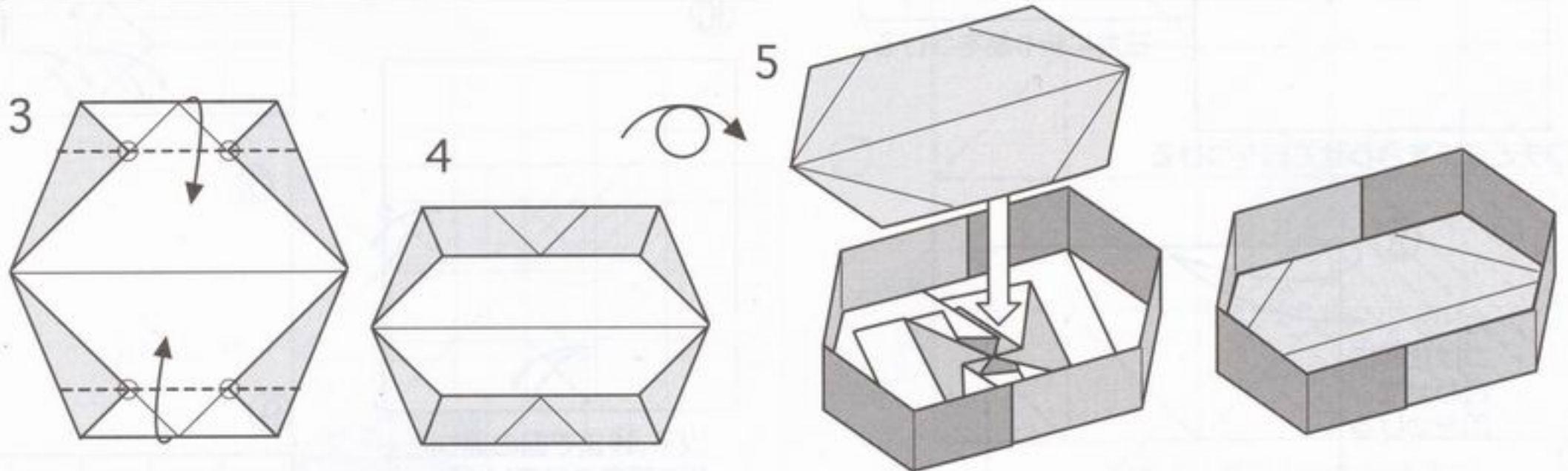
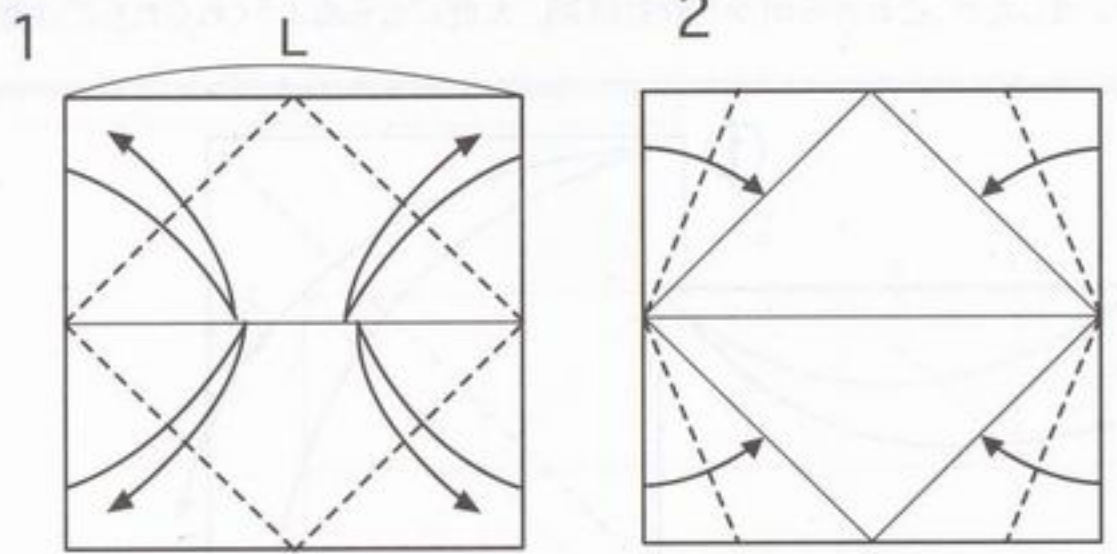
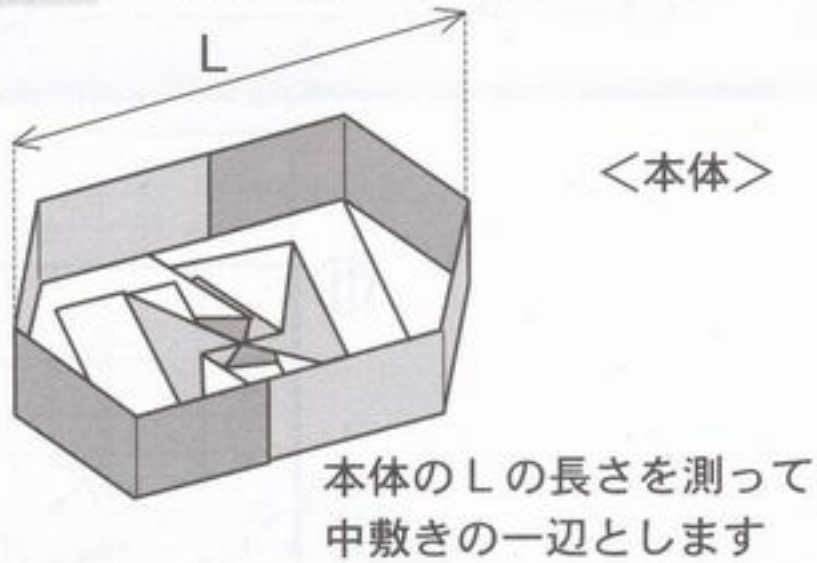


ふたは本体より一辺が6mmくらい大きい正方形から折ります。





中敷き 中敷きは付録です。しもしなくてもかまいません。



折り紙の
周辺

第39回
愛好家

What Enthusiasts
Got to Be

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

ユニット折り紙は同じ折り方のユニットを数を多く折らなくてはならない。ある講習会で手が止まっている人に「ユニットは6つ以上は折る気がしない。面倒で」と本音を言われた。折り紙の指導的立場にいる人だったので、「甘い。ユニットは30枚を基本の数と心得るべし」と気合いを入れた。

世の折り紙愛好家にユニットを

敬遠する人は多い。その要素のひとつが数をこなさなくてはいけないことだろう。数を折ることは私も苦痛だ。時間および体力気力の無駄使いに思えて、何とかならないものかいつも思う。何工程か同じ折りをして流れ作業のように折ったり、1枚ずつ最後まで折ったり、「ああ、あんたが手伝ってくれたらなあ」と猫に話しかけたり、飽きてくるといろいろリズムを変える。いつか必ずくる終わりを考えてがんばる。そうして、ようやく、たいへんな時間と労力をかけて一つの形が表れたとき、すうっと、ふうっと何か体が抜けて微笑みができる。げに一仕事終えた達成感と喜び。ユニット折り紙愛好家はこの滋味を味わう。

猫にごはんのように、ユニットには

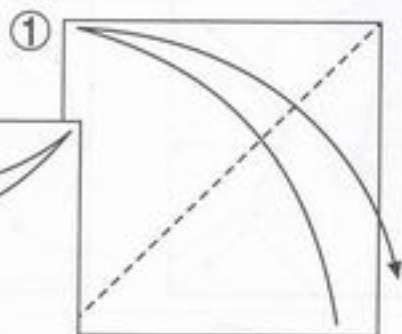
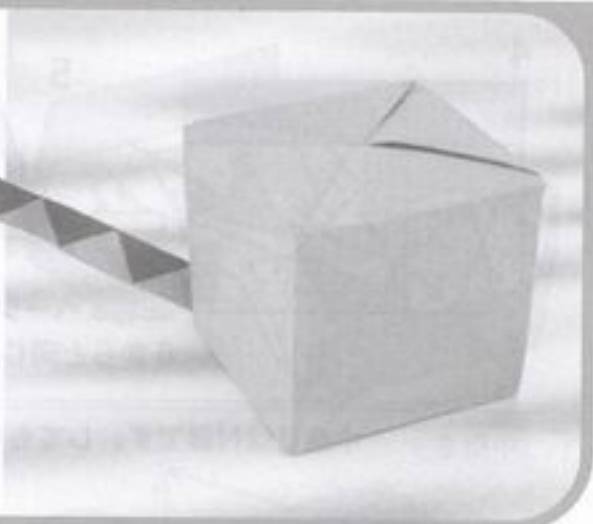
数がつきものと心得て、今年も美しい形を探そう。ユニットを折る気がしないあなた。嫌なことはしない方が心身のため。でも作品鑑賞だけはしてくださいね。

先日松本市で昼食に初めて入った店は、オーナーの趣味が溪流釣りで、店内のいたるところに釣り具や釣果の写真が飾ってあり、置いてある雑誌もすべて釣り関係で、他のものは一切なかった。やがて入ってきた客も釣り仲間らしく、オーナーと会話が始まった。注文の品が来るまで二人の会話を聞きながら、釣りの雑誌をながめた。折り紙に興味のない人が折り紙に染まった場にいると、きっとこんな気持ちができるのだろう、と思った。

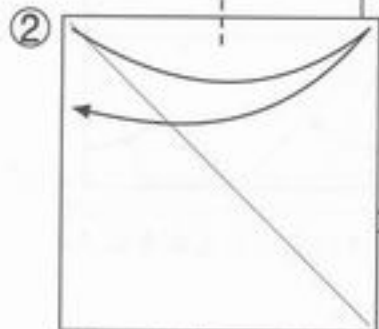
第40回 寅ばこ
Tiger-Box

作・折り図 小方弘巳 Ogata Hiromi
折り図編集・レイアウト おりがみはうす

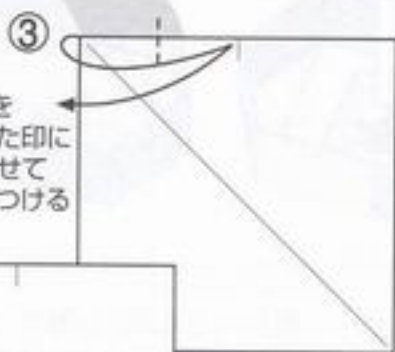
小方さんから届いた年賀状に、とてもユニークな寅の折り紙が載っていました。すぐに連絡をとって、急いで折り図を描き起こして頂きました。お正月は終わってしまいましたが、これから何かと飲む時期。大虎にならぬようくれぐれもご注意を。



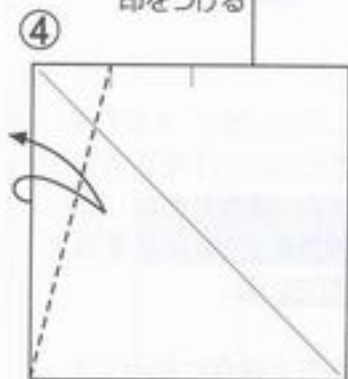
① 三角に折り筋をつける



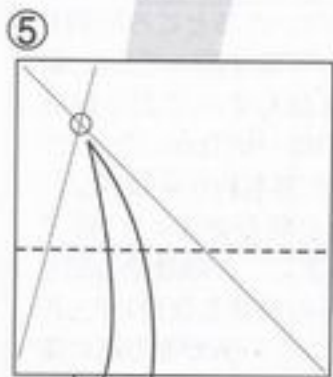
② フチとフチを合わせて印をつける



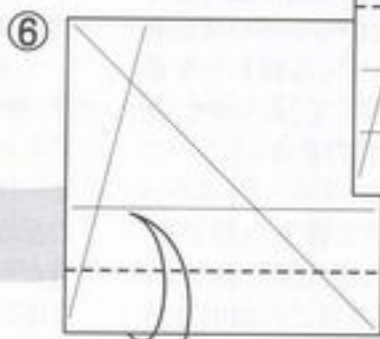
③ カドをつけた印に合わせて印をつける



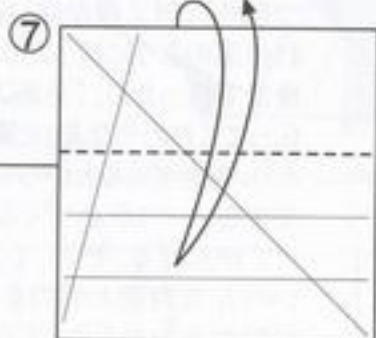
④ カドとつけた印をむすぶ線で折り筋をつける



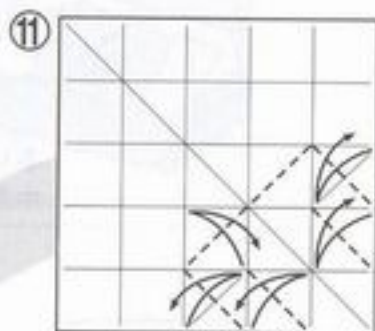
⑤ フチを○の交点に合わせて折る



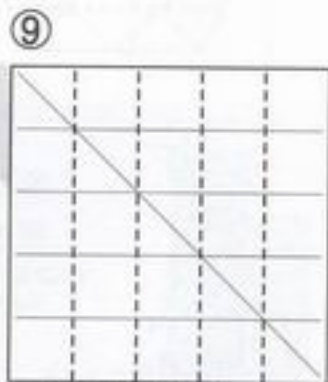
⑥ フチと折り筋を合わせて折り筋をつける



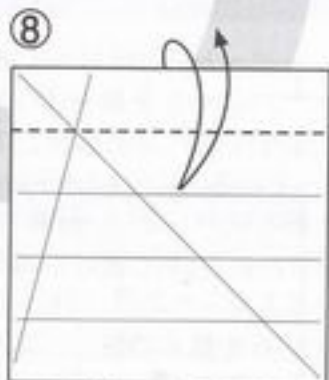
⑦ フチとつけた折り筋を合わせて折り筋をつける



⑩ 以下、⑭まで図の通りに折り筋をつけていく

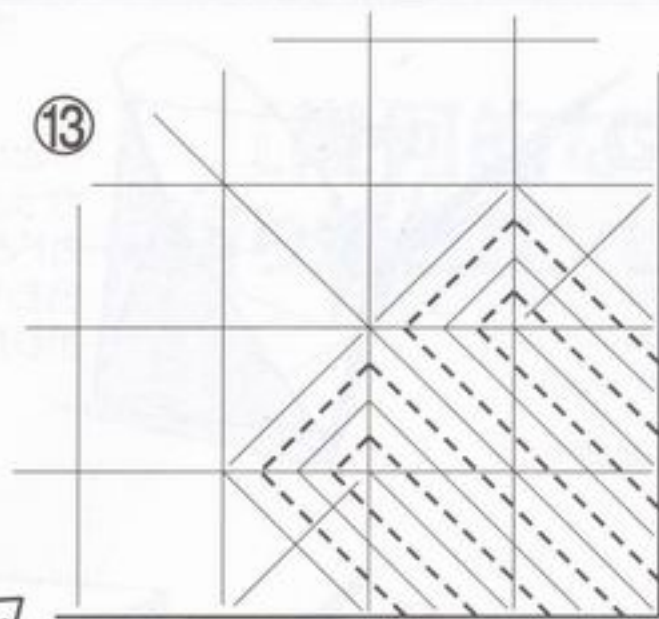


⑨ 同じように縦にも5等分の折り筋をつける

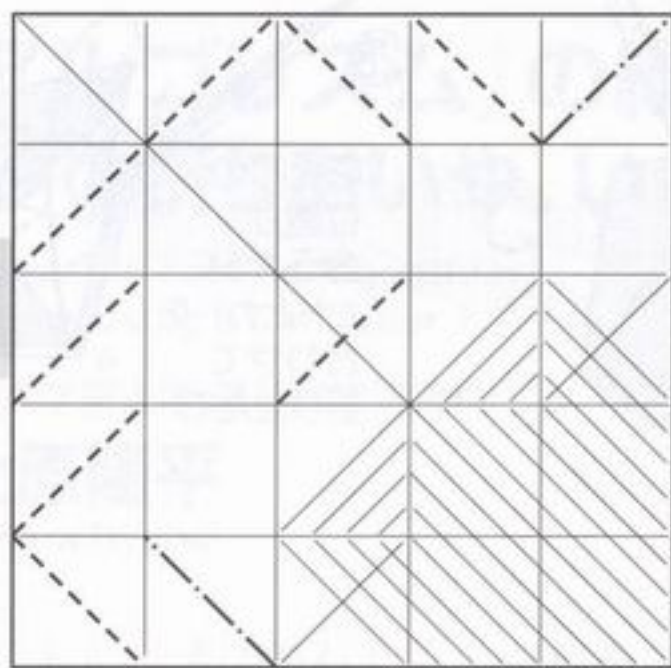


⑧ フチとつけた折り筋を合わせて折り筋をつける

13



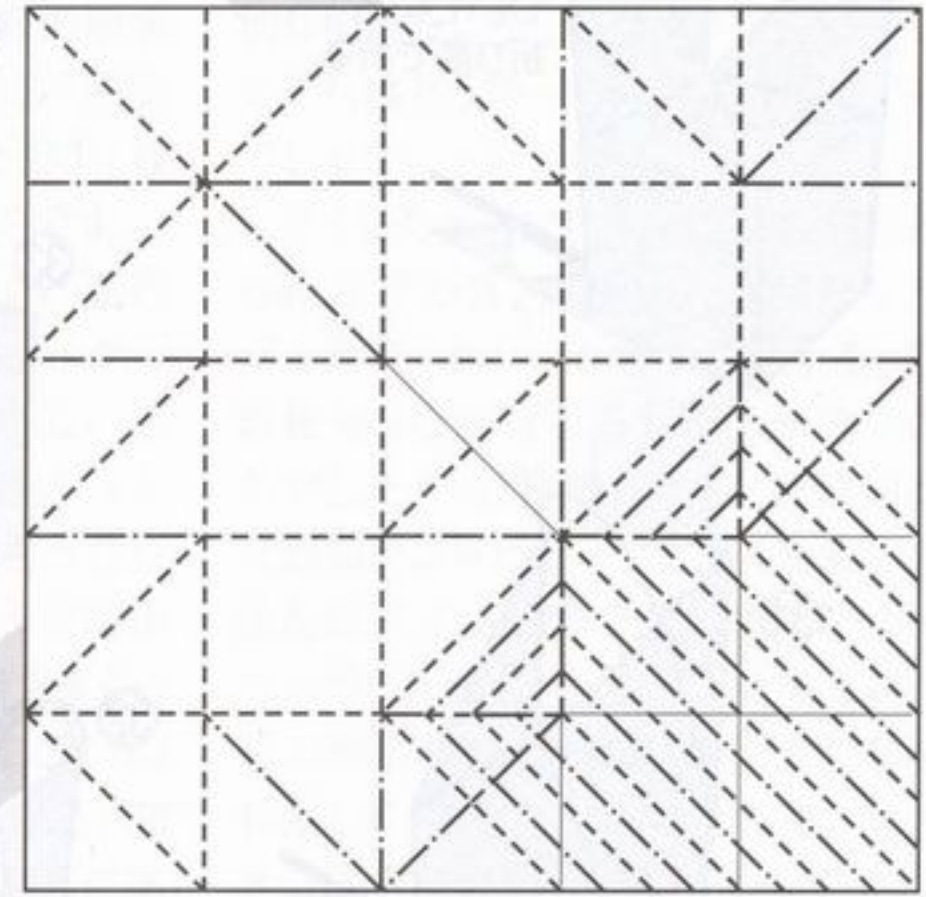
14



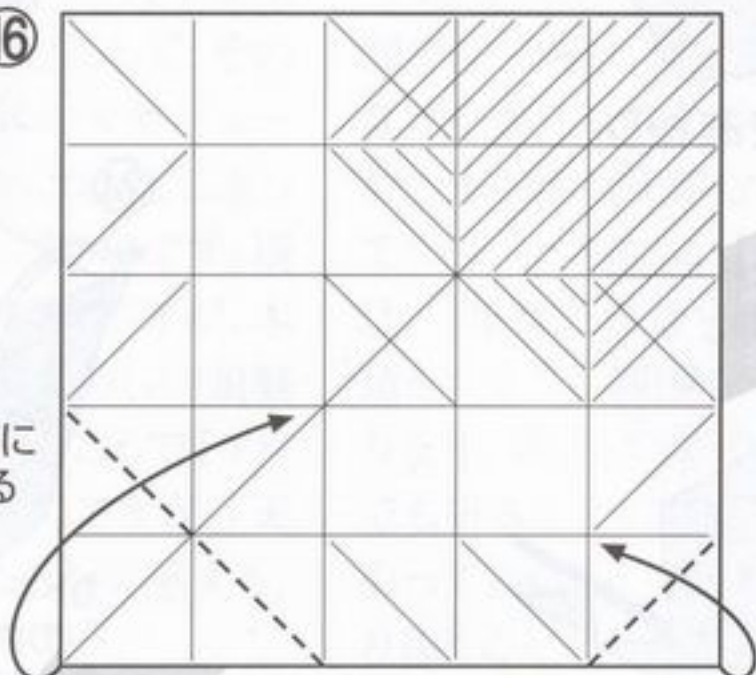
12



15



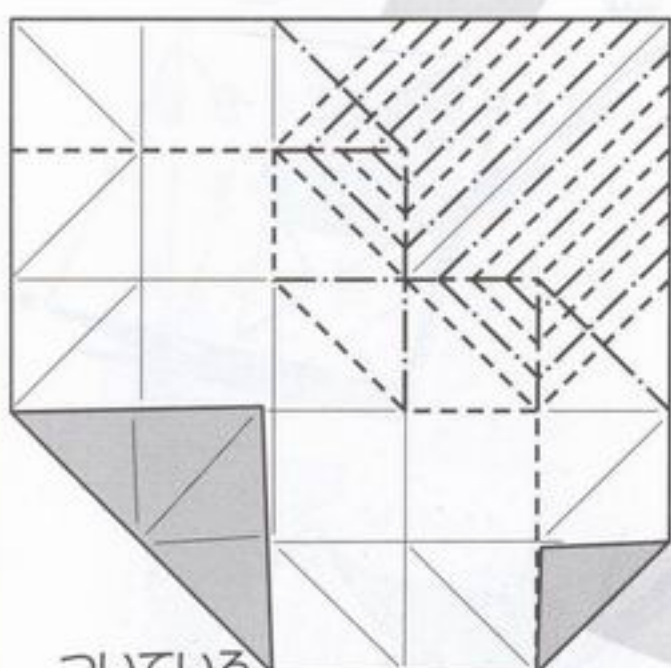
16



カドを折り筋に合わせて折る

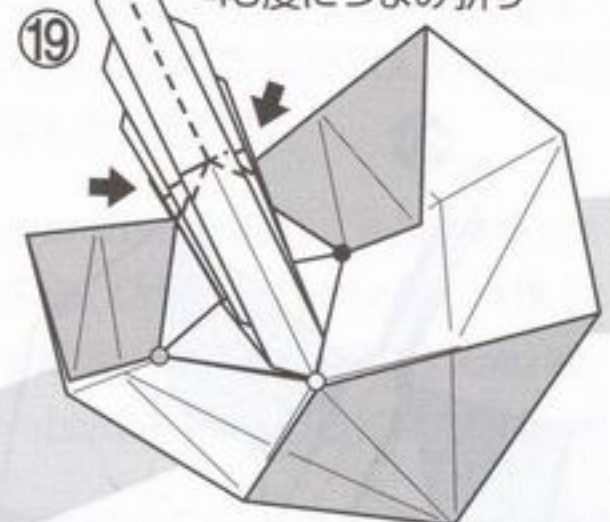
図をよく見て山谷をつけ直す

17

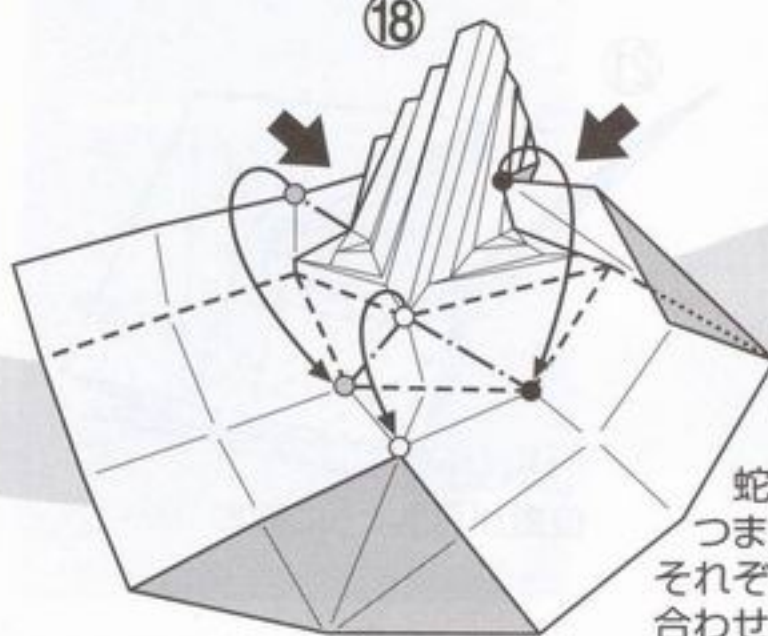


ついている折り筋でまとめていく

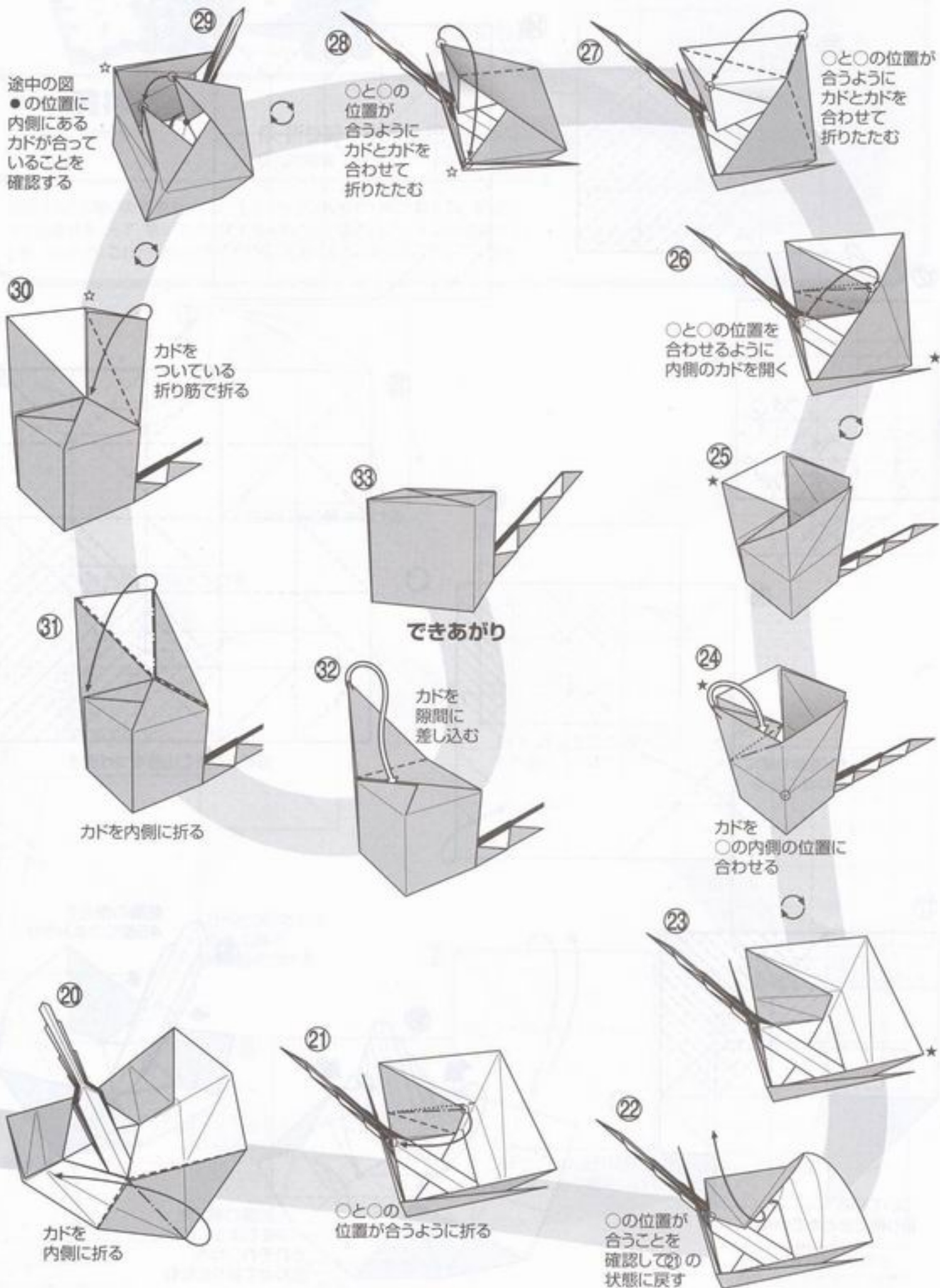
蛇腹の根元を45度につまみ折り



18



蛇腹の根元をつまむようにしてそれぞれ○印を合わせて折りたたむ



『幾何的な折りアルゴリズム』の紹介 — 折り紙とコンピュータの折りあい、いかに? —

Introduction to "Geometric Folding Algorithms"
— How to Fold Origami Using a Computer? —

北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科

上原隆平

Uehara Ryuhei

2009年10月22日、NHKの教育テレビで『地球ドラマチック「ORIGAMIマエストロ〜折り目が作る無限の宇宙〜」』という番組が放映されました。本誌の読者なら御覧になった人も多いでしょう。実は私も3シーンだけ映っていたのですが、それはどうでもよくて、この番組の中で後半10分くらいの間、ずっと出ていた「もじゃもじゃの若者」がエリック・ドメインです。エリックは14歳で大学を卒業し、20歳で博士号を取得して、そのままアメリカでも最高峰のマサチューセッツ工科大学の教員になってしまったという華麗な経歴の持ち主です。現在はたしか27歳だと思うのですが、本当に「天才」と呼ぶにふさわしい頭脳の持ち主です。私は彼のところで1ヶ月ほど過ごしたことがあるのですが、「天才」をナマで見ていることを実感する、とても刺激的な毎日でした。

そんな彼は番組の中で「世界最高の折り紙理論学者」で「キャンパスで

一日中遊んでいます」と紹介されました。私にとって、これはかなりツボにはまる紹介でした（テレビの前で本当に爆笑していました）。一般の研究者が眉間にシワを寄せようなる「研究対象」も、彼にとっては「遊び相手」なんだなあ〜と改めて思ったものです。

本当のところを言えば、彼の「遊び相手」は折り紙・パズル・マジックから純粋な数学まで、とても幅広いのです。平均的な大学の研究者は、1年間で1〜2編の論文をうんうんうなりながら書くのですが、エリックは毎年数十本の論文をすらすらと書きまくっています。特にエリックがすごいのは、「結果だけなら誰でもわかる」問題をたくさん解決してきたところにあります。例えば「折り紙はどんなものでも折ることができる」とか「直線に沿って1回切るだけでどんな形でも切り抜くことができる」とか、こういった結果は結果だけなら誰にでも理解できると思います。でもこれを「数学的

に厳密な意味で証明する」のは、一筋縄ではいきません。そもそも何を証明すれば「何でも折れる」とか「何でも切り抜ける」と言えるのでしょうか。そしてそれはどうやって証明すればいいんでしょう……？

こうしたテーマに初めて真面目に取り組んだのは、エリック・ドメインやジョセフ・オルークを中心とする、計算幾何学と呼ばれる分野の研究者たちでした（「計算幾何学」とは幾何的な問題をコンピュータで解くための方法を研究する分野です）。ロバート・ラングのTreeMakerを代表とする折り紙の設計技法は、折り紙作家たちを刺激して、作品としての「折り紙」を大きく発達させましたが、これに呼応するように、エリックを中心とする北米の研究者たちの精力的な研究は、計算幾何学の中の「折り紙」も大きく発展させました。この2つの流れによって、近年の「折り紙」は“Origami”として大きく発展したと言えるでしょう。こうした大きな発展を計算幾何学の視点からまとめた本が2007年に出版されました。それが

・Geometric Folding Algorithms: Linkage, Origami, Polyhedra, Erik D. Demaine and Joseph O'Rourke, Cambridge Press, 2007

です（図1）。この本は2007年の発売のちょっと前に日本に2冊だけ持ち込まれました。そして2009年11月13日、ついにこの本の和訳

・幾何的な折りアルゴリズム — リン

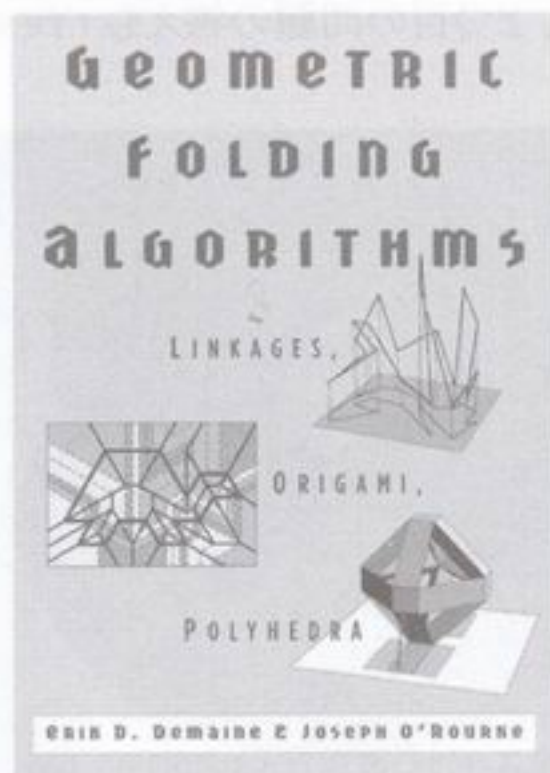


図1 "Geometric Folding Algorithms" (原著)



図2 『幾何的な折りアルゴリズム』(和訳)

『幾何的な折りアルゴリズム』の紹介

— 折り紙とコンピュータの折りあい、いかに? —

Introduction to "Geometric Folding Algorithms"
— How to Fold Origami Using a Computer? —

上原隆平

Uehara Ryuhei

ケージ・折り紙・多面体—、エリック・D・ドメイン(著)、ジョセフ・オルーク(著)、上原隆平(訳)、近代科学社、2009

が無事出版の運びとなりました(図2)。このあたりのいきさつについては上記の訳本の最後に書いてしまったので、ここでは省きます。

同書は一応、理工系の学術書なのですが、普通の学術書の枠組みから、ちょっと(かなり?)はみ出しています。特に『全編フルカラー』で『装丁が豪華』というところが学術書としては、かなり異色です。また、折り紙の本としてもこれだけ『豪華』で『重い』本はめったにないでしょう。そしてなにより『高い』!!

どうもすみません。でも、個人的にはそれだけの中身のある本ではないかと思っています。なんと言っても長く読めます。同書は、前から後ろに向かってだんだん難しくなるような本ではありません。それぞれのトピックは、簡単などころもあれば(とても?)難しいところもあります。長く読んでもらえれば、その時々で楽しめるところが違って、何年たってもそこに何かしらの『発見』がある本ではないかと思えます。

同書には未解決問題もたくさん載っています。この点も学術書としては珍しいです。学術書という古色蒼然としたイメージがありますが、この本は違います。実は本の背表紙には「未解決問題が60個以上」と書いてありますが、本文のリストには58個しか載っていません。たぶん著者たちが書きはじめてから書き終えるまでの間に解けて

しまったのでしょう。また2007年以降も、折り紙に関する結果は活発に出されています。この和訳を11月13日にどうしても間に合わせたかったのは、同時期に金沢で開催された「計算幾何とグラフに関する国際会議」に間に合わせたかったからなのですが、この会議でもいくつかの関連する結果の発表がありました。例えばエリック・ドメインや東京大学の館知宏さんたちが以下の研究成果を発表しました。

•(Non)existence of Pleated Folds:
How Paper Folds Between Creases,
Erik D. Demaine, Martin L.
Demaine, Vi Hart, Gregory N.
Price, and Tomohiro Tachi, pp.
141–142, JCCGG 2009.

この研究によると、図3の左の有名な双曲放物面は、「厳密な意味での折り紙としては存在しない」そうです。つまりこの写真はマボロシです(うそです)。ところが右の曲線折りのほうはどうも「存在する」ようです。なんて微妙なんでしょう。和訳の本の319ペー

ジから320ページには、こうした折り紙については「わかっていない」と書かれているのですが、この論文によって「現在ではだいぶわかってきた」と言えるでしょう(余談ですが、上記論文の著者の一人マーチン・ドメインは、エリック・ドメインのお父さんです。図3の右の折り紙は私が彼に個人的にもらったものです。今も目の前に現物がありません。うれしいです)。

こうした「研究レベル」の折り紙はさておき、同書には実はヒラメキで解ける問題もたくさんあります。例えばこんな問題はどうでしょう。

- それぞれの面は長方形や正方形なのに、面と面の間が直角でない立体はあるか?
- 正四面体と立方体が両方折れる共通の展開図はあるか?

最初の問題の答えは「Yes」です。解答は本の表紙をよ〜く見ると載っています(できれば表紙を見ないで解答にたどりついてもらいたいところですが)。2つ目の問題の答えも「Yes」と

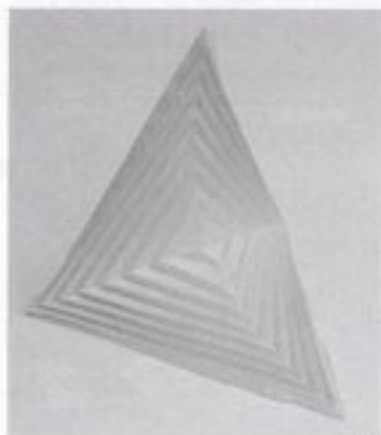


図3 双曲放物面とその曲線バージョン

○上原隆平(うえはら・りゅうへい)＝1965年大阪生まれ、東京育ち、石川県金沢市在住。専門は理論計算機科学。古株みたいな顔をしています。折り紙歴は浅くて、4OSMEに参加したときにはエリック・ドメインしか知人がいませんでした。



言いたいところですが、これは実は未解決問題です。でも「解答にととても近い」展開図は見つかっています。図4にその展開図を挙げておきます。上の展開図は、折り方次第で下の2つの立体をどちらも作ることができます。三角錐の方は正四面体なのですが、直方体の方は、1辺がちょっとだけ他よりも長いのです。まさに「惜しい!!」としか言いようがないと思いませんか。これは愛媛大学の平田浩一先生が「発見」した展開図で、私が大好きな結果の1つです。特に立体と展開図に

ついては、わかっていないことがまだまだ多いんだなあというのが私の実感です。

こうしたヒラメキが必要な展開図の問題は、紙を「遊び相手」にしている折り紙愛好者なら得意な分野なのではないでしょうか。上記の平田先生以外にも、同書には前川定理、川崎定理はじめ、日本人の結果がたくさん載っています。同書が、こうした「遊び」からの「発見」に対する良いガイドブックになれば本望です。

◆おまけ◆

2010年1月初頭、たまたま仕事でボストンに行くことになり、原著者の二人を訪ねることができました。せっかくなので、彼らの近況を紹介します。

本文中に書くのを忘れましたが、ジョセフ・オルークさんはボストン郊外にある名門女子大、スミス・カレッジの数学教授です。アメリカの名門女子大はどんなところだろうとワクワクして訪ねたのですが、講義のないシーズンだったので、学生はほとんどいませんでした。残念。オルークさんはいかにも女子大の教授然とした温厚な紳士なのですが、こと研究と教育についてはとても熱い思いをもちます。今は高校生レベルの「折り紙や飛び出す絵本を使って数学を学ぶ本」の執筆に余念がありません。原稿を見せてもらったのですが、本書の入門編といったところでしょうか。この本も刊行が楽しみです。

エリックは、あいかわらずの天才ぶりを発揮してくれました。訪問中、彼とボストン美術館を観光したときのことです。ミュージアム・ショップで、あるパズルを見つけました。さっそく買って、昼食中は、このパズルの難しさについての議論です。ちょうど最近私がはまっている「じゃばら折り」とこのパズルを組み合わせたらどうだろうとヒラメいて、ほとんどその場で解けてしまいました。また一つ新しい論文が生まれました。

まだまだ楽しい話題がたくさんあるのですが、紙面もつきてきたので、続きは本書の続編(?)に譲ります。

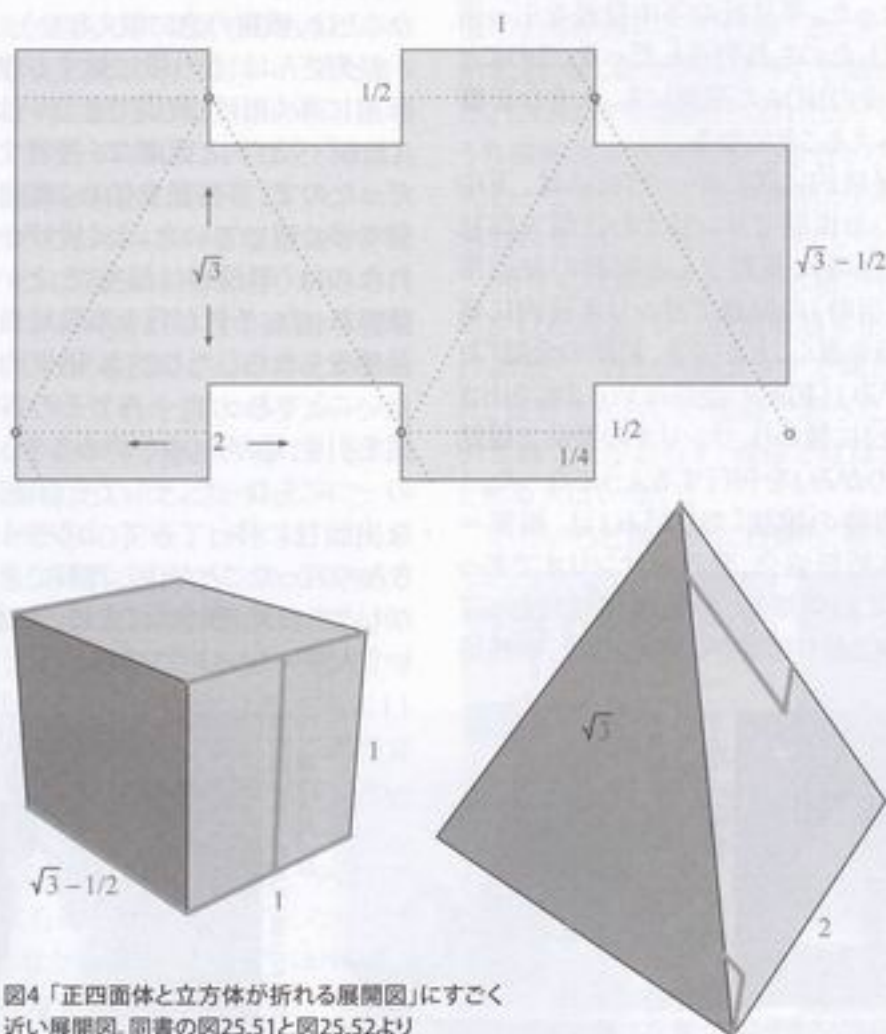


図4「正四面体と立方体が折れる展開図」にすこく近い展開図。同書の図25.51と図25.52より

第4回 折り紙の理想を追求した人 長野耕平さん Nagano Kohei: A Man with Idea of Origami

長野さんは、日本折紙協会の発足に尽力した一人であるが、その功績をあえて一言で表すならば、大きな理想を掲げ続け、夢を追いかけて現実とのギャップを埋めるべく奔走した人である。

日本折紙作家協会は、当時折り紙作家といわれた人達が集まってできた組織であったが、作家同士の内輪めや足の引っ張り合いなど問題が山積で、本来の理想とするところの、和やか・友愛には程遠く、ギクシャクしていた。そこで、作家協会を発展的解散し、新しく和やかで友愛に満ちた会を創ろうということになり、東京四谷の主婦会館(当時)で、解散式が行われた。

そしてその解散式は、同時に日本折紙協会(NOA)の発起大会となった。この音頭をとったのが長野さんである。NOAは、作家に限らず誰でも参加できる和やかな組織にしようと、ごく一部の作家を除き、作家協会のほぼ全員が賛成してスタートすることとなった。

NOA設立委員会は、長野さんをはじめ、故・佐野康博氏(本誌116号参照)、大橋皓也氏(現NOA理事長)、重松祥司氏(現NOA常任理事)、内藤正晃氏(前NOA理事長)、故・加瀬三郎氏(元NOA理事)、故・佐竹保正氏(元NOA理事)、真下治隆氏(現NOA常任理事)らを中心に発足された。

設立大会が平凡社の会議室で開かれ、初代会長には、当時平凡社社長の故・下中邦彦氏が就任した。

NOAがスタートしてからも長野さんの理想(夢)は続き、最初の会誌を出すきっかけをつくったのも、長野さんであった。しかし当初これには経済的な問題があり、周囲から反対されたという。結局、初期の会誌(本誌115号参照)は、紙は北越製紙からの提供で、写真は阿部恒氏(同115号参照)の協力を得て、発行されることとなった。

長野さんの行動には、周囲が驚かされることが多かった。特に、その物怖じしない性格は、大物を引き込む力となった。平凡社の下中社長を引っ張りだしたのも長野さんだった。このことは、後のNOAの運営にも、大きな影響を与えることになる。

経済的に苦しかったNOAは、下中氏のお世話でサンリオの辻信太郎社長(当時)、長野さんと同郷の友近常務(当時)の厚意でサンリオ社内に事務局を置くことができ、初期の会誌『おりがみ』(初期の会誌はVol.3まで出された)に替わり、サンリオの援助で雑誌『おりがみ』を刊行するようになった。

当時の雑誌『おりがみ』は、編集＝日本折紙協会、発売＝サンリオであった。この時期は、私も事務局員として編集と折り図製作に携わった。事務局

には、サンリオから出向してきた社員も在籍していた。

長野さんの夢は続く。当時国会議員を務めていた故・伏見康治氏(元日本学術会議議長)も、長野さんの行動力でNOAに引き込まれ、嵐山(埼玉県)に折紙博物館を造るという構想に協力していただくということもあった。折紙博物館の話はバブル期の構想であったため、バブルがはじけると共に残念ながら消滅してしまった(伏見先生は、このエピソードのみならず、折り紙の良き理解者として尽力していただいた。若者達がつくった折紙探偵団にも大きな理解を示し、長く日本折紙学会(JOAS)の顧問を務めていただいたことは、感謝の念に堪えない)。

長野さんは、折り紙に対する理想を非常に高く掲げ、実現できないようなことも「べきだ」と遠慮なく提言する人だったので、事務局を始め、周囲の反発を多く招いていた。よく投げかけられたのは「事務局は温室だ」という言葉であった。それが我々事務局員に緊張感をもたらしたことは、結果的には良いことであった。一方でその言葉は尾を引き、私がNOAを辞めるきっかけの一つにもなった。そしてその後、小さな出版社に移ってみて、ようやく長野さんの言ったことが少し理解できた気がしたものだ。残念なことに、今はそういう人がいないようである。



▲会誌Vol.2より座談会「日本折紙協会の発出にあたって」。左から大橋皓也氏、内藤正晃氏、佐野康博氏(後ろ向き)、長野耕平氏



▶長野さんの会社ひび社から発売されたペーパーナプキンホルダー。実用折り紙の先駆けです。



▶物腰は柔らかだが、言うことはハッキリ言う人だった。



▲会議の2には長野さんのことが
分かりやすく書いてある(発行当時
NOAサロンがびほ社内であった)

NOAサロン常務プロフィール

長野 博

NOAの常務理事。いざ日本一か
も、現実が伴えば、無理に長くスーパ
ーマン、だが何故にもスーパーマンはい
ないから世の中成り立つのだ。全ての人の
幸せを願う。サロンの日誌、周囲の心
配も向のその、自社とサロンの役に掛け
牛車丸の様には掛け廻る。西園のモノ
ン事務局長。

○やまぐち真(ヤマグチ・マコト)
=1944年東京生まれ。NOA事務局を
経て、おりがみはうすを設立。海外交
流を積極的に行くと共に若手育成に
努力。NOA理事、JOAS事務局長兼顧
問。趣味は競馬。



長野さんの掲げる理想の一つに「日本折紙協会の社団法人化」というのがあり、「それに向けてなんとかするべきだ」と口癖のように言っていた。これに関しては周囲も賛成し、理事、役員の方々も、それなりの努力をされていた。現在は社団ではないが、株式会社となっている。

長野さんの大きな業績(?)の一つに「おりがみの日」記念日設立がある。「日本折紙協会が折り紙の日を制定するべきだ」と言い出したのである。80年NOAが正式に認定してから、NOA主催の行事が始まるまで、83年頃から何年も個人(長野グループ)でおりがみの日のアピール活動を続けていた。銀座の伊東屋でのおりがみの日を取り上げたディスプレイ、また違う年には同じ銀座の和光での折り紙のウィンドウ・ディスプレイなど、得意とする連鶴を中心に展開していた。

長野さんはいろいろな意味でアイデアマンであった。特におりがみの日のイベントには180羽の連鶴の輪を折る。これにも長野さんの考えがあって、一八十、これを漢字のイメージにすると平和の平。連鶴を輪に折ることで平和(輪)ということだった。

おりがみの日を11月11日に決めたのも、非常に長野さんらしい発想であった。この日にする意味は「日付の数字1、1、1、1を並べると、一辺を1で構成した正方形の紙になる。さらに11月11日は世界平和記念日で二重の意味を持ち、折り紙にふさわしい」というのである。これを盛んにアピールし、とても良い案ではあったが、やはりこの話にも周囲は冷たく、すんなりとは決まらなかった。それが今ではNOAのビッグイベントになっている。

この記念日の時期に、こどもの城で

開催されるおりがみカーニバルも、形は違うが長野さんの提案であった。当初これにも周囲の反応は冷たかったが、長野さんはそれにもめげず、こどもの城での開催に向けて行動し続けていた。そして94年によく開催が決まった

時、NOAに長野さんの姿はなかった。さぞかし残念であったらと思う。

おりがみの日には、最初は私も大きく関わっていた。NOA設立20周年記念行事(93年)として、最初のNOA主催のおりがみの日の行事「ミニチュア折紙展」は、おりがみはうすで開かれた。これは数年間続けられたが、そのうち事務局の考え方やつき合い方が変わってきたのか、ある時期から何も言われなくなり、現在に至っている。

94年には長野さんが折り紙の普及にかけた理論「折り紙循環基本形」の作品展も、おりがみはうすで開かれた。長野さんらしい理論であったが、引き継ぐ人がおらず、現在ではほとんど知る人はいない。

いろいろと精力的に行動し、夢を追



▲おりがみの日に情熱を傾け、活動していた頃の長野さんと支援者(写真提供千葉京氏、長野さんの隣)

い続け、そして功績を残してきた長野さんであったが、志半ばにして93年8月に癌のため他界されてしまった。

長野さんが亡くなる2日前、大阪の木下一郎氏(現NOA常任理事)と布施知子氏の3人でお見舞いに行った。何も喋れない長野さんであったが、病室に入っていった私に、一瞬ではあったが、ニコッと笑顔で迎えてくれ、それは私に最後のメッセージを送ってくれたのだと思っている。その時の顔は今でも脳裏に焼き付いている。

折り紙への思いが強かった長野さんが、今のJOASの姿をみたら、その理想に近い組織になっていて、喜んでもらえるのではないかとと思っている。



▲サンリオに移ってから出された、隔月刊雑誌「おりがみ」。左から創刊号、2号表紙は佐野康博氏の犬、3号クリスマス特集、表紙はまだ聖け出しの頃の私の作品クリスマスツリーと千野利雄氏のサンタクロス

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

西川誠司 Nishikawa Seiji

17冊目 収蔵資料あれこれ

From the Origami Library Archives

日本折紙学会の大切な事業の一つとして折り紙関連の資料の収集、整理がある。この事業の中心的な活動が「折紙図書館」運営であり、本コーナーでも毎回様々な資料を紹介してきた。今回は、これまでに収集整理した折り紙関連資料の概観を紹介することにしよう。

<書籍>

2009年12月現在で日本折紙学会ウェブサイトの「折紙図書館」で蔵書検索できる書籍数(雑誌類を除く)は和洋書合わせ1,000件を超えた。図に出版年代5年毎の蔵書数を示してみた。1970年代後半から収蔵書数が急上昇するが、実際の出版数もほぼこのような傾向を持つものと思われる。例えば国会図書館のデータベースやAmazon.comで「おりがみ」や「折り紙」をキーワードに検索すると3,000件弱の書籍が見つかる。これらに比べ3分の1程度とはいえJOAS図書館の

1,000という数字はようやくインパクトのある収蔵数に達したと考えられる。また、同じAmazonの中古書コーナーでは60年代後半から80年代前半の書籍が60-70件くらいヒットするが、直ぐに手に入るものは2、3割もないようなのでJOAS図書館はこの年代に強みを持っていると言えそうだ。1960年前後は、一気に資料数が少なくなる。この年代の代表的なものは『折り紙読本』(吉澤章著、緑地社、1957年)ということになるのだが、残念ながらこれは収蔵出来ていない(後年の鎌倉書房版は収蔵している)。1950年以前となるとコピー資料の形で整理しているものも多いが、『季刊をる』No.5で宮下温氏が紹介している『手工教材折紙細工』(中島種二著、建設社、1943年、写真1)は数少ないオリジナルとして収蔵している。中島種二氏の著書では他に1952年の『折紙の作り方』(啓文館)があるが、これはコピー資料として収蔵している。また、こ

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

れもコピー資料ではあるが、本多功氏の『おりがみ 上下』(日本玩具協会)は、先の『手工教材折紙細工』からさかのぼること約10年の1931-1932年の発行である。本書収録の前後半身の2枚複合による「小馬(コウマ)」が目を引き。これらの古書は、オリジナルはもとよりコピー自身の傷みも強いので閲覧の際は、担当者の立ち会いをお願いすることになる。

<雑誌>

雑誌類では、『折紙探偵団新聞』、『折紙探偵団』はもちろん、NOAの『月刊おりがみ』も僅かな欠番を除き揃っている。海外ではイギリスの『BRITISH ORIGAMI』が1978年頃から、OrigamiUSAでは『THE PAPER』(1995年-)、その前身の『The Newsletter』(1980年-)、更にその前身の『The Origamian』(1962年-)を部分的に収蔵している。その他、オラン

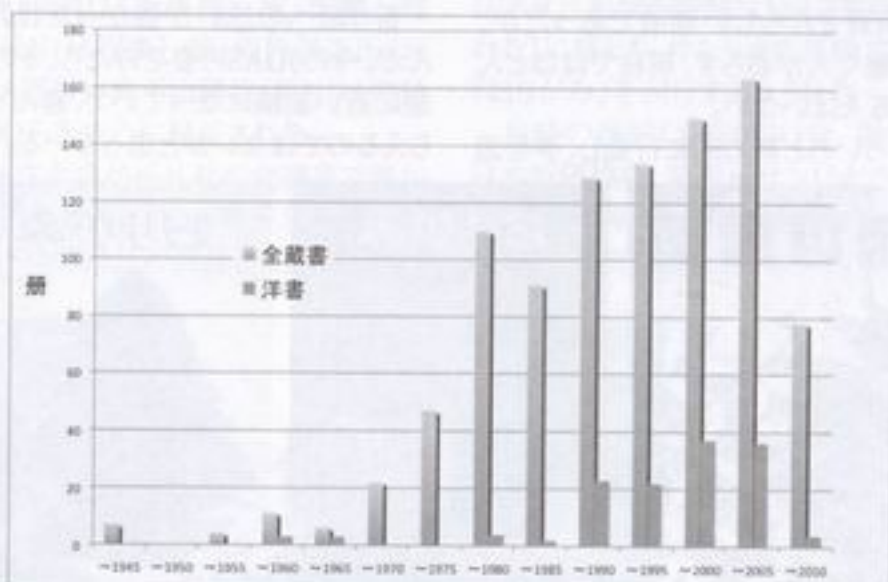


図1 JOAS折紙図書館が収蔵する書籍の年代別収蔵数。80年代前半にやや凹みがある。この年代の代表はやはり『ビバ!おりがみ』(前川淳作、笠原邦彦編・著、サンリオ、1983年)だ。最後の年代は実際には2008年までなので少なくなっている。



写真1 『手工教材折紙細工』(中島種二著、建設社、1943年)。「季刊をる」で宮下温氏の所蔵のものが紹介されているが、本書とは表紙の装丁が異なるもの。奥付には昭和18年5月15日(2,000部)とある。

○西川誠司(にしかわ・せいじ)=JOAS評議員代表。1963年6月13日生まれ。資料を眺めていると時間を忘れる。



ダ、スペイン、イタリア、フランス、ドイツ各国の協会機関誌の収蔵数も増えており、雑誌資料数も1,000を優に超える。これら雑誌類のデータ整理が目下の課題であるが、収蔵誌の目録の一部を日本折紙学会ウェブサイトの「折紙図書館」にリンクして紹介しているので、目当ての雑誌があるかご確認いただきたい。また、「折紙図書館」(JOASホール)へ閲覧にお出でいただければ書棚から直接確認していただける。

<その他の資料>

書籍・雑誌以外の折紙関連の資料を「論文」、「記事等」、「展覧会」、「映像」、「キット」、「マスコミ」などカテゴリーで整理している。現在、これらの書籍・雑誌外資料に分類されているもの500点以上が収集整理されているので、幾つか例示して紹介してみよう。

1) 論文:折紙に関係する学術論文や大学紀要の抜き刷り、学会発表

要旨、大学生の卒業論文などである。川崎敏和氏の1983年から1998年に至る十数編の数学分野の論文や岡村昌夫氏の日本人形玩具学会誌での明治期の折り紙に関する2編の論文。2001-2004年にかけて日本航空宇宙学会でのソーラーセイルに関する講演要旨など88点。

- 2) 記事等:過去新聞や雑誌などで折り紙が取り上げられた際の記事。300点。
- 3) 映像:DVDなどの折り紙資料。「おりがみ・その宇宙 吉澤 章 -神、宿る手-」(紀伊国屋書店,2007年,写真2)、昨年秋にNHK教育テレビでも一部放映されたGREEN FUSE FILMSのDVDなど41点。
- 4) キット:作例入り折り紙用紙(写真3)、カレンダー、おりがみカルタなど34点。
- 5) マスコミ:これまで折り紙関連でテレビ出演した際の台本など。

これら資料もようやく各カテゴリーが定まってきた。今後も特に論文抜き刷

りや卒業論文等は充実させたいと思う。また、「折紙図書館」へ閲覧にお出でいただければこれらの全リストを確認していただける。

<閲覧>

書籍の閲覧に際しては、日本折紙学会ウェブサイトの「折紙図書館」で検索して目当ての資料の収蔵を予め確認していただくと便利。コピーは出来ないが、その場で実際に折ってみる、メモを取ることはOK。その他の資料は、書架脇に収蔵資料リストが用意してあるので取りあえず出かけてみるのも一興だろう。必ず事前にlibrary@origami.gr.jp宛てにお申し込みいただきたい。原則的に第1を除く土曜日の13:00-17:00を閲覧時間としているが、変更等があり得るのでご注意願いたい。

<お礼>

現在、JOAS図書館の収蔵資料はそのほとんどすべてが寄贈によるものであり、資料をご提供いただいた皆さまのご厚意の上に成り立っております。特に多くの資料をご提供いただいている方々のお名前をあげさせていただきます。心よりお礼を申し上げます。川崎敏和さん、笹出晋司さん、布施知子さん、本位田那穂美さん、松浦英子さん、御手洗伸さん、山口真さん、渡辺尚彦さんからは、多くの貴重な資料をご寄贈いただいています。ご寄贈いただいた皆さまのお気持ちに報いるためにも、資料整理を充実させ、研究等に利用価値の高い図書館運営を進めていきたいと思っています。



写真2 「おりがみ・その宇宙 吉澤 章 -神、宿る手-」(紀伊国屋書店,2007年)は、1997年の山口真企画・監修(ビデオ)のDVD版だ。GREEN FUSE FILMS制作の「Between the Folds」の吉澤章氏のパートはこれを元としている。貴重な吉澤氏の映像資料となっている。



写真3 作例入りの専用紙「光弘式 趣味のオリガミ」。年代不明ながら、文字の方向からはかなり古いものと思われる。色落ちも無く極めて美本で貴重である。

スキップで Origami Sampo Skipping Every Other Step 折紙散歩

前川 淳 Maekawa Jun

第6回 とりあえずの、あとがき

The Tentative Postscript

『折紙散歩シリーズ』も、11年目の今年で、ひとまず区切りをつけることになった。11年というと、始まったのは、前世紀ということになる。これまで全部で64タイトル、スペースの無駄かなとも思いつつ、以下にタイトルを並べてみる。

◇『折紙散歩』(1999):『東京路上観察編』・『車窓からの眺め編』・『東京近郊折鶴飲食店編+α』・『折紙愛好家の初詣』・『青森編』・『完結編』

◇『新・折紙散歩』(2000):『折鶴さんに会ってきた』・『食べられる折り紙』・『犬も歩けば折鶴に当たる』・『悪魔の足の冒険』・『折鶴の街』・『謎の仙人』

◇『も少し折紙散歩』(2001):『魔法使いの旅』・『炎夏の寄り道』・『カラマツ林の小さな家』・『Origami Ancient Capital to Zen』・『千羽鶴の館』・『折紙散歩者の回想』

◇『まだまだ折紙散歩』(2002):『道草』・谷中、白山、本郷、湯島-』・『五島を待ちながら』・『いつも見ていたヒロシマ』・『折るくすり』・『折鶴のセマンティクス』・『銀座でお買い物』

◇『やっぱり折紙散歩』(2003):『折り箱の話』・『会期大作戦』・『どえりゃー観音様』・『こぼれ松葉をかきあつめ』・『折紙者吉備路を往く』・『折据日和下駄』

◇『折紙散歩は健在なり』(2004):『栈橋を見ていた午後』・『守ってあげたい』・『那須の地上絵』・『折紙散歩最悪の旅-前編-』・『折紙散歩最悪の旅-後編-』・『折紙に逢える鳥』

◇『相も変わらず折紙散歩』(2005):

『三つの教会』・『都電で行こう』・『六つの紙の風船』・『幣と剪紙の花祭』・『菱形の研究』

◇『しつこく折紙散歩』(2006):『五月五日の兜』・『笹の葉さらさら』・『絞りのいろいろ』・『堀内正和氏の彫刻に折り紙を思う』・『関東三大折板建築』・『風に吹かれて』

◇『折紙散歩右往左往』(2007):『なぜか埼玉』・『折紙散歩者、静岡を往く』・『知られざる出雲のおもかげ』・『陸奥の安達の原の駅前に折鶴あると聞くはまことか』・『紙なき里の折り紙』・『河川武蔵野線』

◇『スキップで折紙散歩』(2008、2009):『日曜日の長い午後』・『算法・奥の細道』・『再訪・折紙の鳥』・『店の名は』・『ちりめん細工の世界』

うーん、こうして書くと、タイトルのつけかたに、引用やパロディが目立つ。わかりにくいところでは、『五島を待ちながら』はサミュエル・ベケットの戯曲『ゴドーを待ちながら』、『会期大作戦』は往年の特撮ドラマ『怪奇大作戦』、『こぼれ松葉をかきあつめ』は佐藤春夫の詩から、『折紙散歩は健在なり』は、SF作家シオドア・スタージョンの短編集『スタージョンは健在なり』から、『河川武蔵野線』は、銀林みのるさんの小説『鉄塔

武蔵野線』などである。

こうした遊びは、完全に自己満足によるものだが、本文でも自由にそうしたわがままをさせてもらった。はなはだしいのは、5年目『やっぱり折紙散歩』の『折据日和下駄』だ。永井荷風を話題にしたことで、歴史的仮名遣いと旧字体の縦書きなのである。文体はテキトーだけれど。

上記の「自己満足」と矛盾しているんじゃないかと言うひともいるだろうが、この連載は、「折り紙を、そのコミュニティの中にいる者であることを自覚しつつ、中からではなく、外からの視線で見る。また、外に伝える」という方針をどこかに持って、書いてきた。よくここまで、ネタが続いたものだが、著者のわたしでも思いもかけないぐらいの話題の広がりがあったことは、折り紙というものが、小さな世界でありながら、広い世界とつながる文化



折鶴の描かれた絵はがき
Picture Postcards of Paper Cranes

This is the last article of "Origami Sampo" series. In this series, I have considered origami from many points of view, and I have had me re-realize again the broad extension and expansion of origami culture. The pictures show parts of my orizuru (paper cranes) collection.



「折紙散歩」は、今回が最終回ですが、また、特集記事などで執筆したいと思っています。

○masukawa-jun 折紙創作・研究者。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。

であることを示している、と言えなくもない。ただ、腹案はまだまだあるものの、じっさい、このあたりがひと休みの時期だとも思う。

折り紙は、この10年に限っても、造形技術と多様性の進展、愛好家の世界的な拡大、科学技術との関係など、めざましい発展を遂げている。

わたしは、別の仕事も持ちながら、折り紙をライフワークとしている者だが、折り紙は生涯のテーマとすることになんの不足もないものだ、つくづく思う。

ここで、その広がり、造形という面だけではないということは、強調しておいてもよいだろう。本誌の読者の大半は、じっさいに紙を折って作品をつくるのが好きなひとたちだと思うが、折り紙を「窓」として、歴史・民俗や数学・科学、教育・コミュニケーションなど、さまざまなものに関心を持ってほしいとも思う。

天文学者の池内了氏が、近年、文系と理系を統一する「新しい博物学」

という考え方を提唱している。簡単に言ってしまうと、歴史や文学の言葉を自然科学と結びつけて語ってみる、ということだ。折り紙は、その「新しい博物学」のひとつの典型例にもなるのではないか。わたしはそんなふうにいる。それは、一昨年亡くなった日本折紙学会の顧問でもあった物理学者・伏見康治先生の夢のひとつでもあったかもしれない。

なんて、書いてみたけれど、そんなにたいそうな連載だったか？

上に、シオドア・スタージョンの名が出てきたが、有名なスタージョンの法則というものがある。曰く、

「SFの9割はガラクタである。しかし、どんなものも9割はガラクタである」

ある文学のパネルディスカッションで、英文学の研究者が「SFの9割はガラクタだ」と言ったことに応えた言葉だったという。

逆に言えば、1割の宝石のためにも、ガラクタは無駄ではないというこ

とでもある。

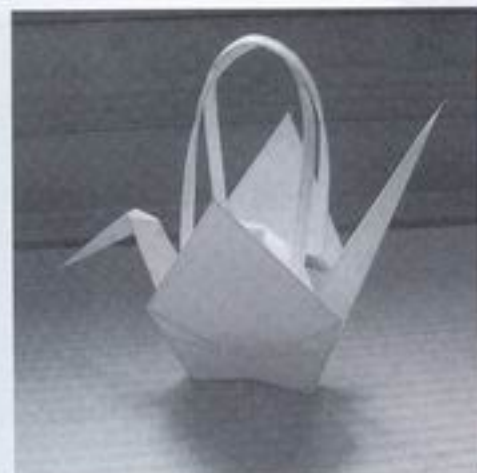
ガラクタと言え、この10年は、わたしの折鶴モノコレクションの品数が、全体像が把握不能なぐらいに増えてきた10年でもあった。その大半は、まさにガラクタと呼ぶしかないものだが、最後に、折鶴コレクションのいくつかを紹介して、とりあえずの『折紙散歩シリーズ』のカーテンコールとしたい。え？だれもアンコールの拍手をしていないって？ ばらばらとは聞こえた気がしたんだけどなあ。

まずは、折鶴の描かれた絵はがきの数々。アニメーションのキャラクターも、日本画の美人も、広島佐々木禎子さんも、みな折鶴を折っている。

そして、折鶴のかたちをしたハンドバッグ。いまはもう生産されていない、この商品の情報をくれた女性は、これと対の赤いハンドバッグを結婚式の披露宴で使ったと聞いている。

最後に、折鶴が宙に浮いているように見えるカラクリの置物。これは、ブラジルから来日していた女性とその友人が、東京都内のフリーマーケットで見つけたものである。一点ものではなさそうなので、どこかに同じものがあるのだろうけれど、これに限って言えば、「前川さんがほしがかるかも」と彼女たちが買って欲なければ、買ったひとがいたとも思えず、いまでも、どこかで眠っていたような気がする。

なにか小さいことでもテーマを持つというのは、ほんとうに楽しいことなのである。そして、折り紙というテーマは、さまざまな世界への窓になるのだ。



折鶴型ハンドバック
A Paper Crane Shaped Handbag



宙に浮く折鶴の置物
A Trick Ornament (Floating Cranes)

日常で行き詰まったときには、折り紙に「プチ逃避」してみたくなる瞬間があります。

そして、折り紙で壁にぶち当たったら現実に逃避して、…いつのまにか両方が解決に向かっている、かも？



「変形六角箱」作：布施知子(P.4)

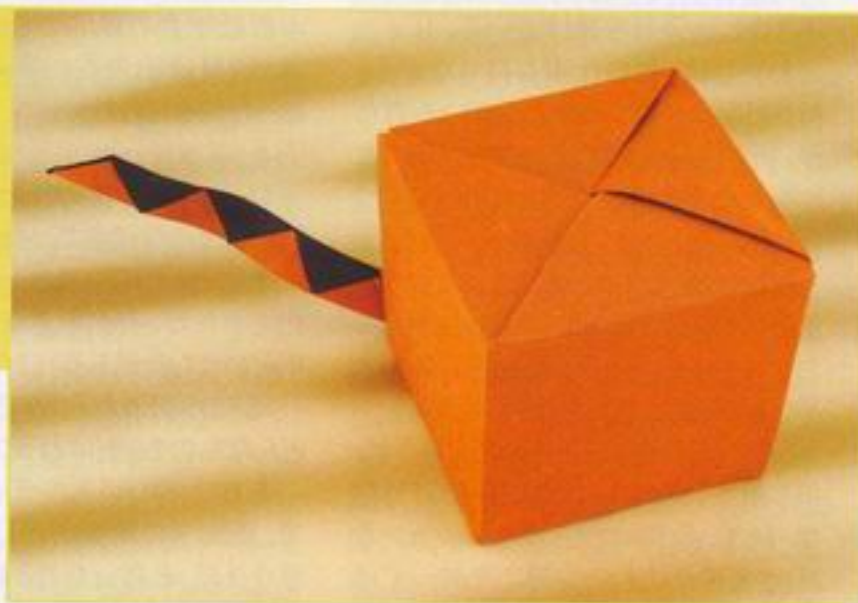
Elongated Hexagonal Box :
Fuse Tomoko (P.4)

■不思議な親近感をまとった小判型のデザインで、なつかしい弁当箱のようなイメージもありますね。作例のように「単色の紙と模様の紙」をうまく構成するとさらに素敵な雰囲気になります。いろいろな用紙で組み合わせを模索してみましょう。

「寅ばこ」作：小方弘巳(P.8)

Tiger-Box : Ogata Hiromi (P.8)

■見た瞬間、思わず「マイッタ!」と叫んでしまった快(怪?)作。虎の表現に於いて、シマシマのしっぽ以外の部分はぶっちゃけどうでもいいようなものだったのか?という気さえしてくるようです(失礼!)



「キツネ」作：

ホアン・ティン・クエット(P.34)

Fox: Hoang Tien Quyet (P.34)

■見る者を強力に惹きつけて放さない鮮烈なインサイドアウト、仕上げの自在な曲面加工。今回は展開図が掲載されていますが、折り図があったとしても非常に難しい作品だと思います。練習ではじっくりと腰を据えて、大きな紙で細部の調整を研究。さらに本折りでは「一気に決める瞬発力」が大切です。

Photo by Hoang Tien Quyet

第5回折紙探偵団名古屋コンベンション 展示作品より

From the Exhibits at 5th Origami Tanteidan Nagoya Convention

■2009年の国内コンベンションも、名古屋で無事に締めくり。ノンストップで折りまくったり、若手の成長を確認したり、それぞれに楽しい時間を過ごしたことでしょう。スタッフ・参加者のみなさま、おつかれさまでした!

▼優雅な海原の剣士、大型ディオラマに突撃



Kakami Hitoshi



Kubo Ayumu

▶人気投票選出作品。
未恐ろしい14歳



Seo Wonson

▲この発想は出なかった…(怖!)

CDO 2009展示作品より

From the Exhibits at CDO 2009

■12月に神谷哲史氏がスペシャルゲストとして招待された、イタリアの団体Centro Diffusione Origamiのコンベンション。特にユニット作品が多数集まり、ユニットマニアにはたまらない内容となっていたようです。もちろんコンプレックス作家もどんどん進出中。そこのアナタ、次回はぜひ参加ご検討を!



Alessandro Beber

▲今年のコンテスト優秀作品。テーマは「乗り物」

Seth Friedman



招待者作品。弾丸のような、重みのあるスピード感を体現したフォルム



Tomioka Kazuhiro

◀「体積」を強く意識した作品づくりができる逸材

▼背中の「ワニ皮」度合、さらに増量中



Kawahata Fumiaki

◀多くのマニアが通る道。技術力の基礎は、鍛えておいて損はない!



Muraki Atsunori



Krystyna Burczyk



Paolo Bascetta



Alessandro Beber

▲展開図を見て、その場で折った猛者はいるのだろうか?



Jorge Pardo

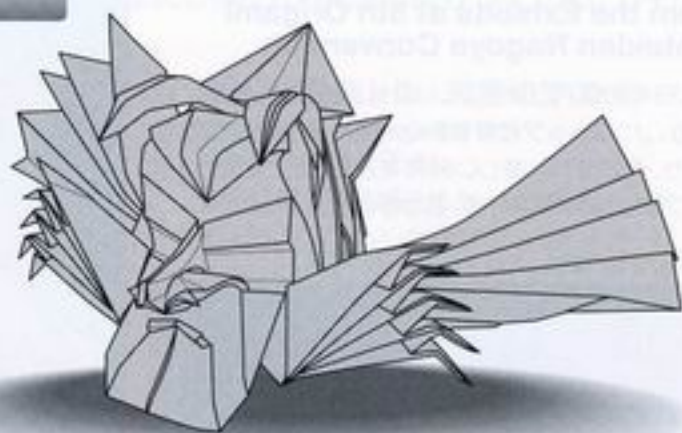
▲多彩なユニット作品群

SHIBARAKU-HEAD

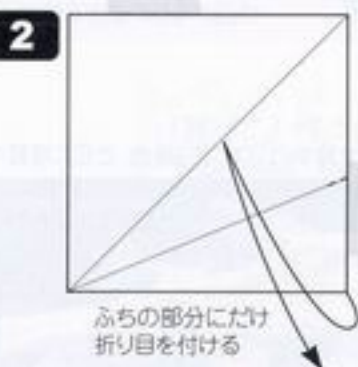
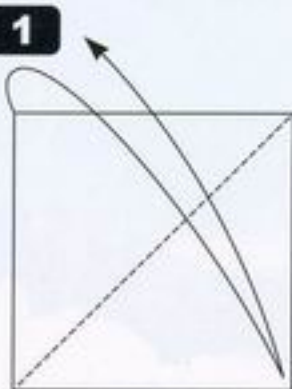
©HOJYO Takashi 2009

創作・図:北條高史

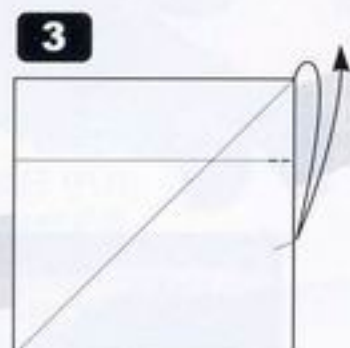
創作2009/11/15 作図2010/01/10



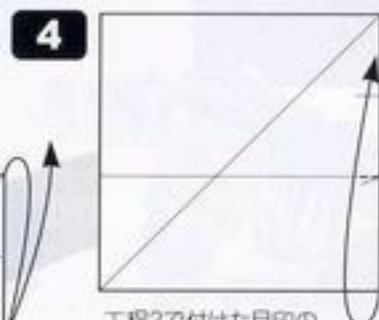
1辺35センチ以上の紙を推奨
両面の色が同じ紙を使用する
図では理解の便のため表裏を
色分けしてある



ふちの部分にだけ
折り目を付ける



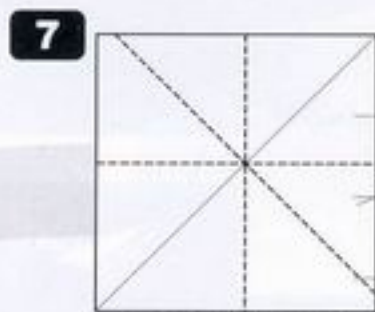
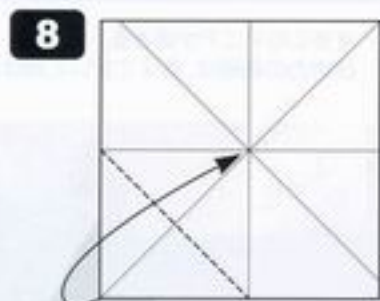
工程2で付けた目印にカドを
合わせてふちの部分だけ
折り目を付ける



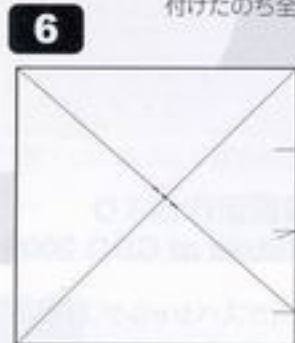
工程2で付けた目印の
ところで折り上げるが
ふちの部分だけを折る
ようにする



工程3で付けた目印のところで
ふちの部分にだけ折り目を
付けたのち全体をひらく



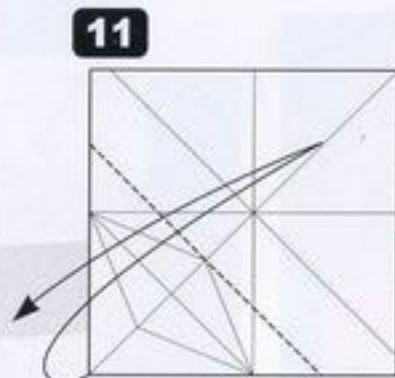
工程6で付けた折り目を規準にして
折り目を付ける
次の図からは工程2~6で付けた
目印を表示しない



工程5で付けた目印と
左上のカドを結んだ線で
対角線上にだけ折り目を付ける



折り目を
付けたのち
全体をひらく

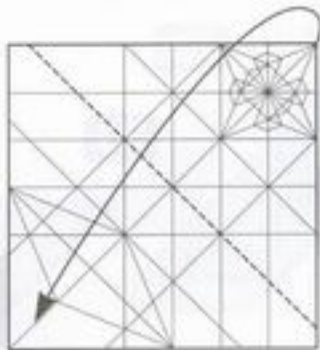


交点の位置で折り目を付ける



交点に合わせて折り目を付ける

25



26



27



上端部分を工程18~20と同様に折ったのち全体をひらく

24



裏側も工程22~23と同様に折ったのち全体をひらく

28



23



22



21



20

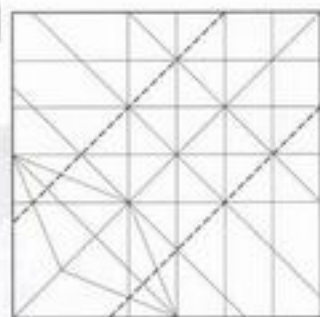


19



ひらきつぶす

15



交点の位置で折り目を付ける

14



交点の位置で折り目を付ける

18

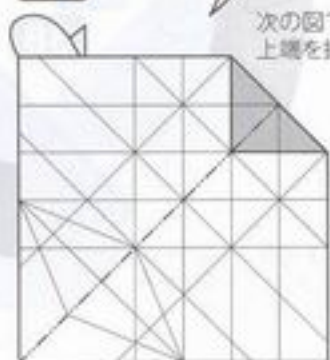


ひらきつぶす

16

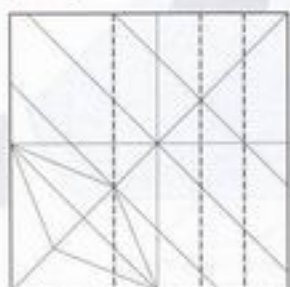


17

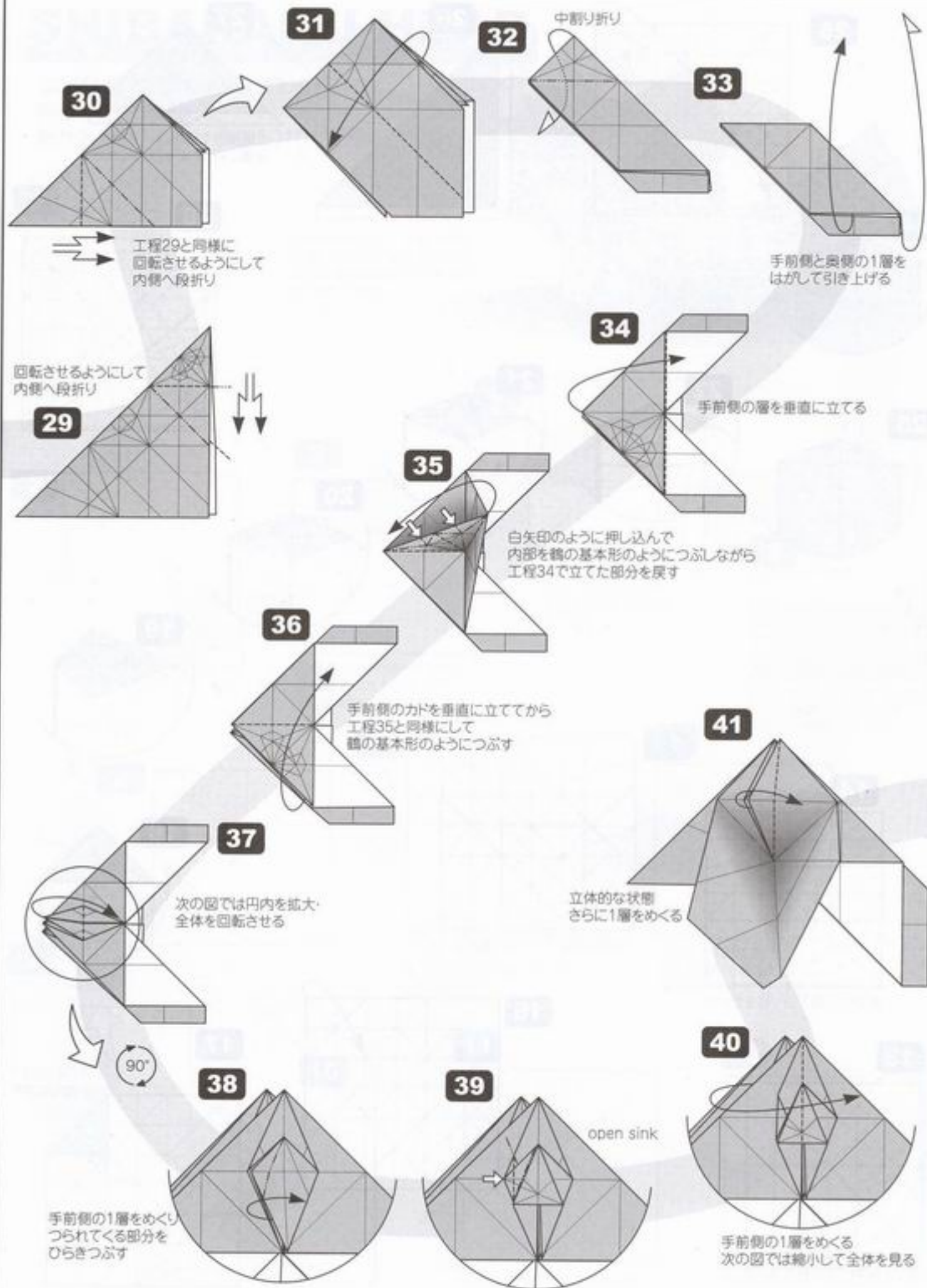


次の図では上端を拡大

13



交点の位置で折り目を付ける



51

立体的な状態
カドを下側に倒す

52

立体的に
なっている
部分をとじる

50

カドを回転させる
ように折る

53

上端のカドをひとつ
折り下ろしながら
袋状になっている部分を
右側にひらく

49

手前側の1枚をめくる

48

手前側の1層だけ
折り目を付ける

47

open sink

42

へこんだ部分を裏側から上方へ押し出す
下端から立ち上がってきたカドは右側に倒す

46

手前側の1層に
折り目を付ける



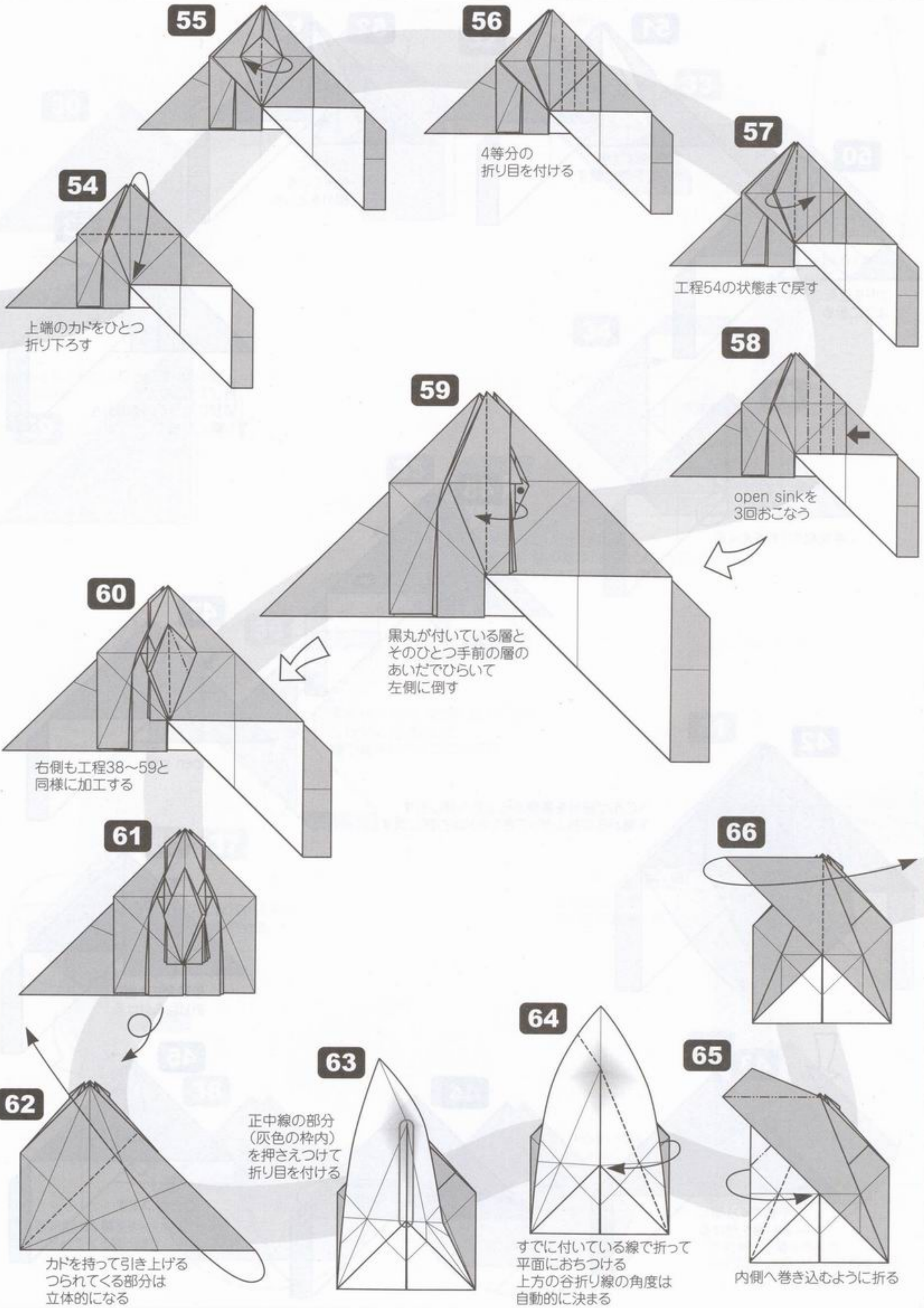
43

手前側の1層に
折り目を付ける

44

45

ひらきつぶす



55

56

57

54

4等分の
折り目を付ける

工程54の状態まで戻す

上端のカドをひとつ
折り下ろす

58

59

open sinkを
3回おこなう

60

黒丸が付いている層と
そのひとつ手前の層の
あいだでひらいて
左側に倒す

右側も工程38~59と
同様に加工する

61

66

62

63

64

65

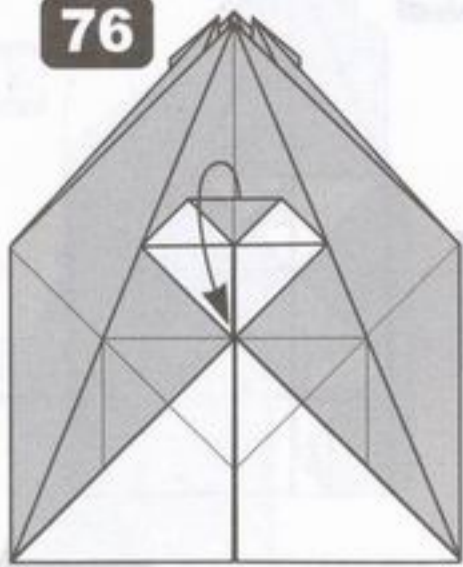
正中線の部分
(灰色の枠内)
を押さえつけて
折り目を付ける

カドを持って引き上げる
つられてくる部分は
立体的になる

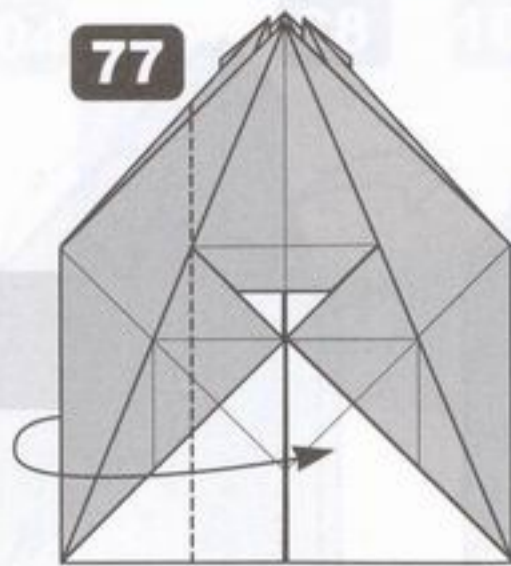
すでに付いている線で折って
平面におちつける
上方の谷折り線の角度は
自動的に決まる

内側へ巻き込むように折る

76

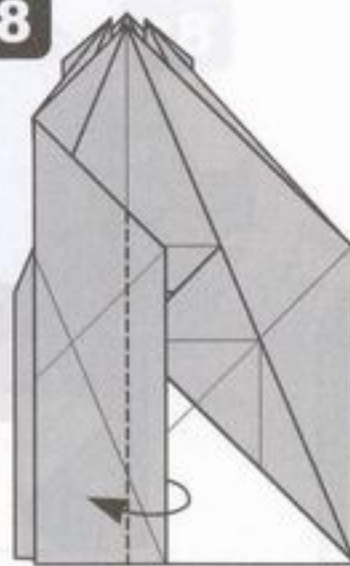


77



手前側の層の
カドの位置で折る

78



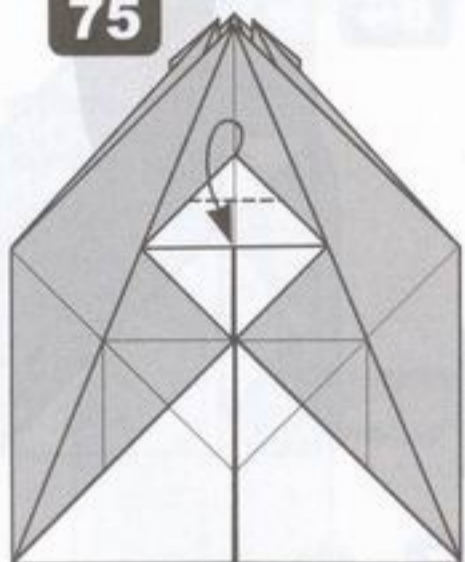
正中線の位置で折る

79

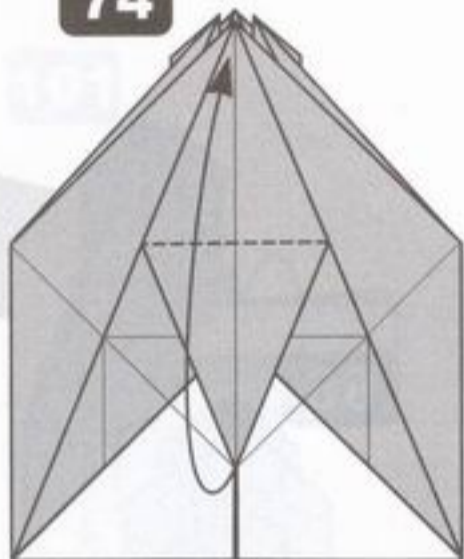


工程77の状態まで
戻す

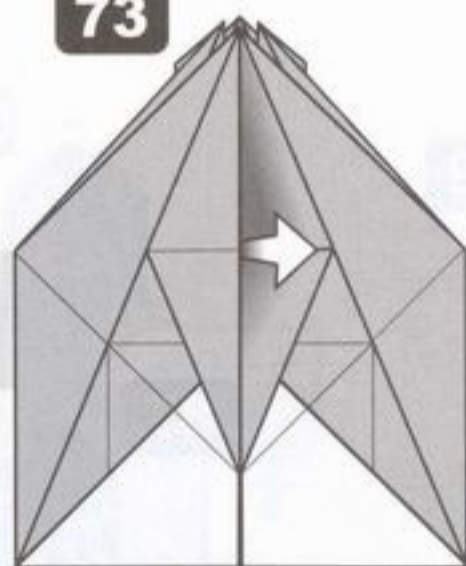
75



74

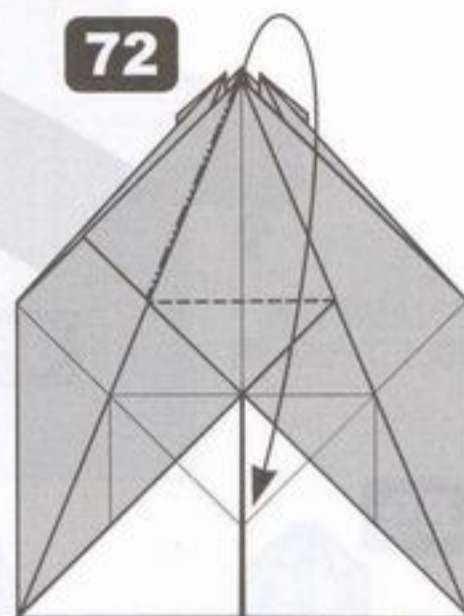


73



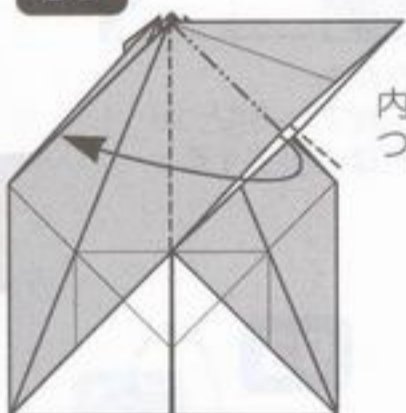
open sinkを戻すような感覚で
内側に重なっている層を引き出して
次の図のような形状にする

72



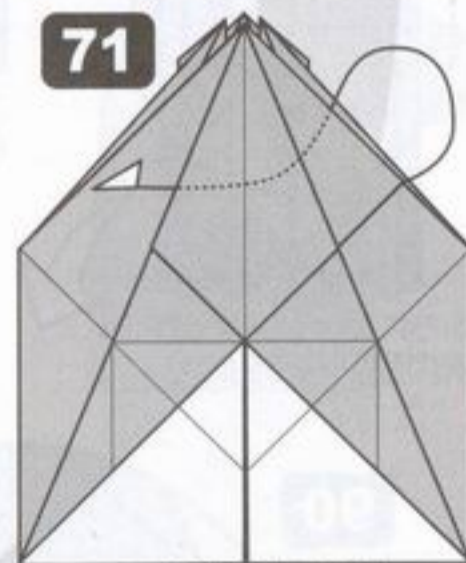
手前側のカドを折り下ろしながら
つられてくる部分をひらきつぶす

67



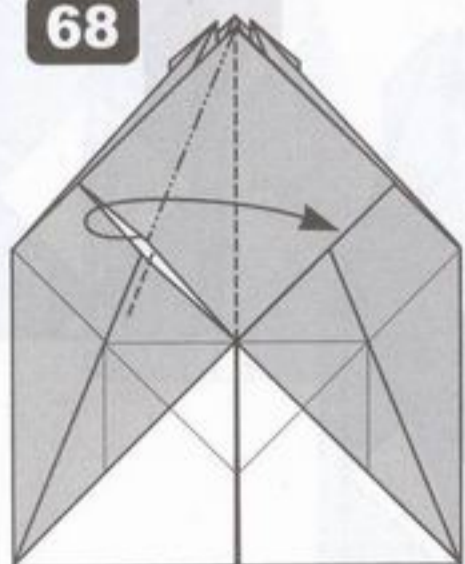
内側をひらき
つぶす

71



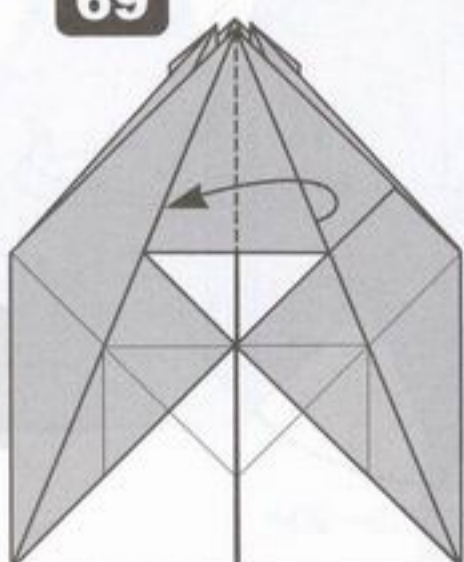
一番手前側のカドを
中割り折りの的に
左側へ押し込む

68

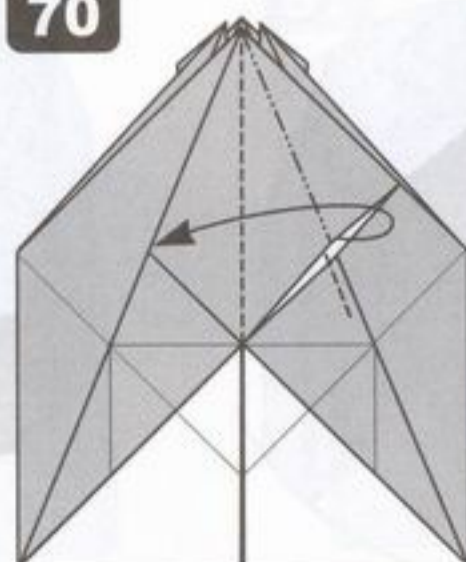


内側をひらきつぶす

69

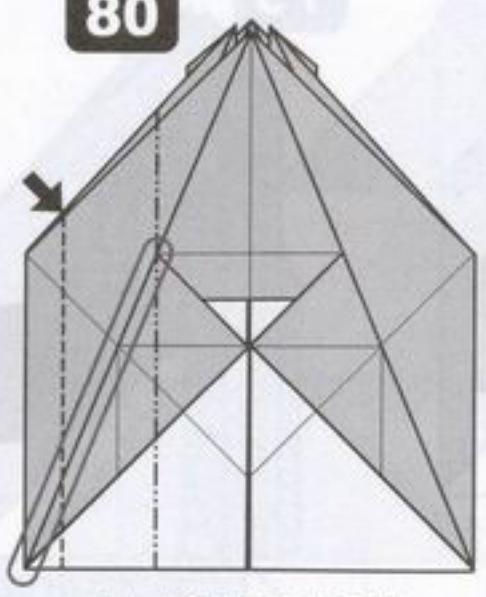


70



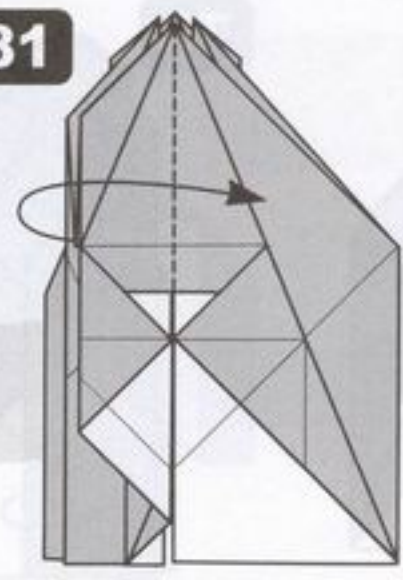
右側も
工程68~69と
同様に加工する

80



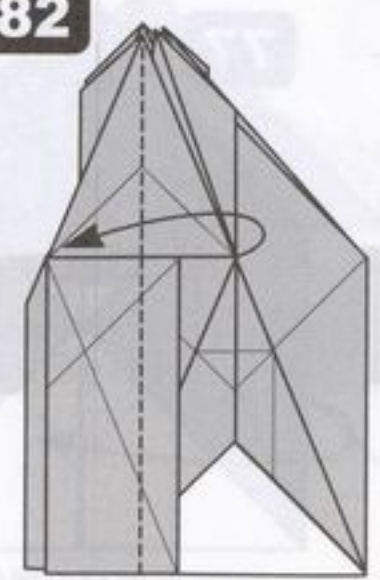
open sinkを2回おこなうが
灰色の枠で示した部分(手前側の層と
2番目の層の重なった部分)は
closed sink的に扱う

81



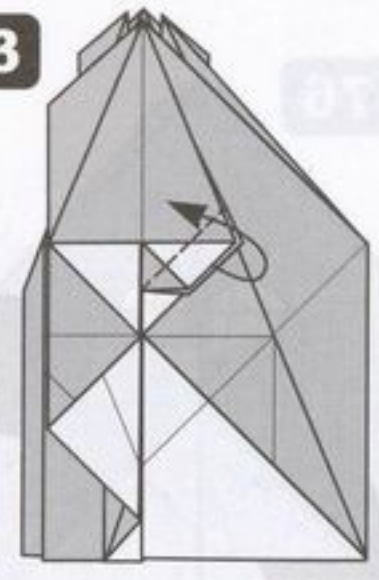
カドの位置で手前から
4層目のところでめくりながら
つられてくる部分を
ひらきつぶす

82

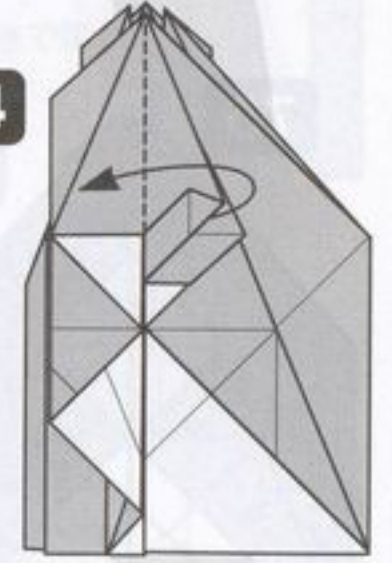


カドの位置で
手前から3層をめくる

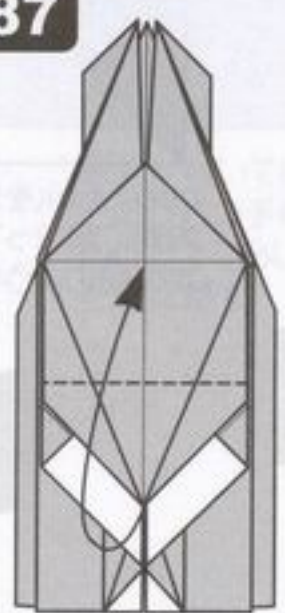
83



84

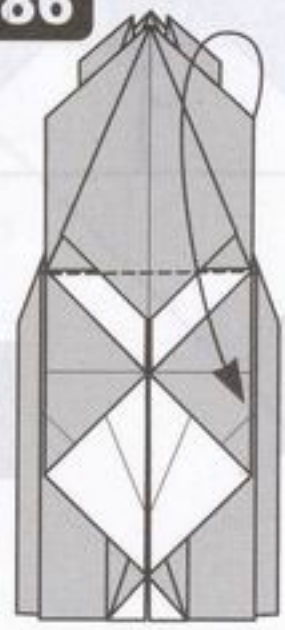


87

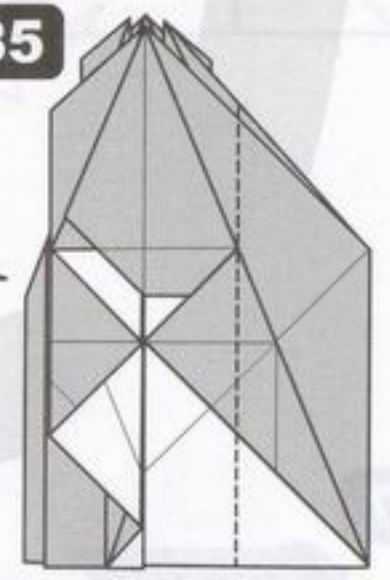


手前側のカドを
交点に合わせて
折り上げる

86

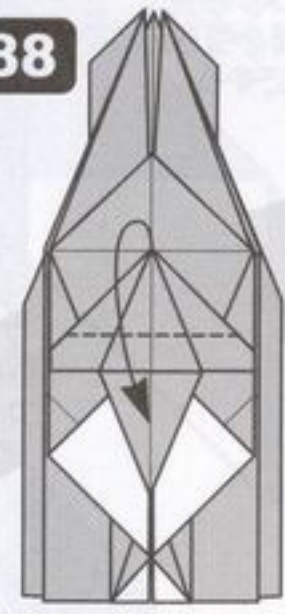


85



右側も
工程77~84と
同様に加工する

88



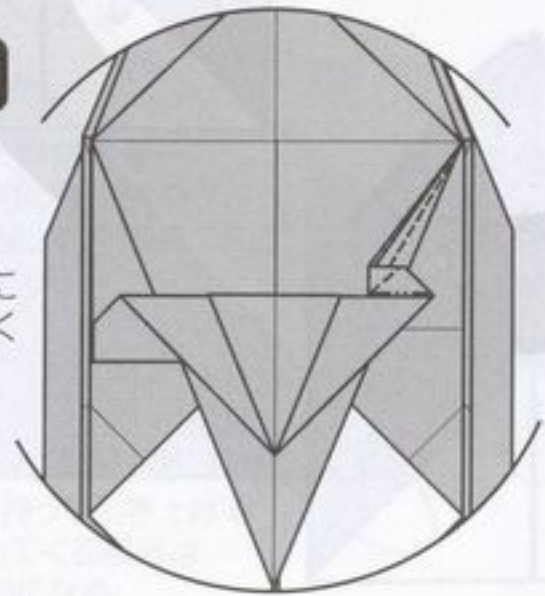
この工程では
明確な規準はない

89



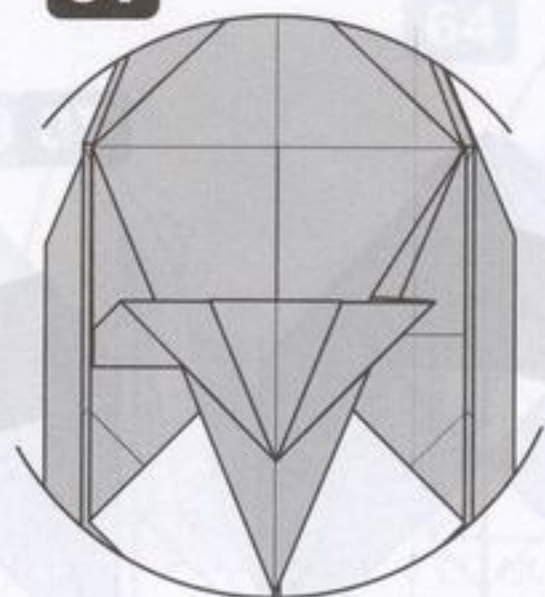
ふちに沿って中割り折り
次の図で円内を拡大

90



中割り折りの
折り込んで細く
する

91

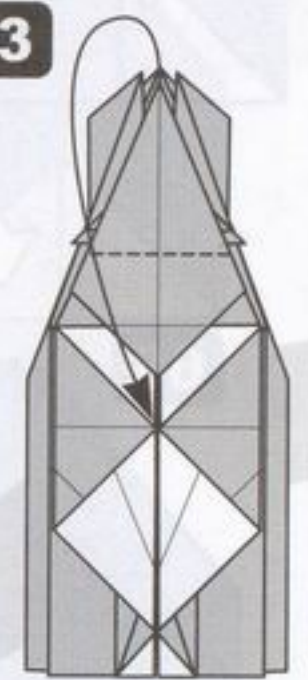


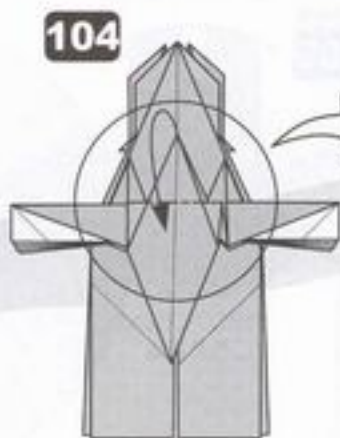
左側も工程89~90と
同様に折る

92

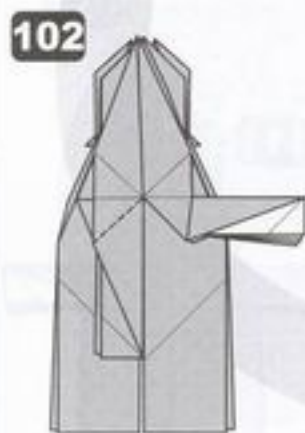
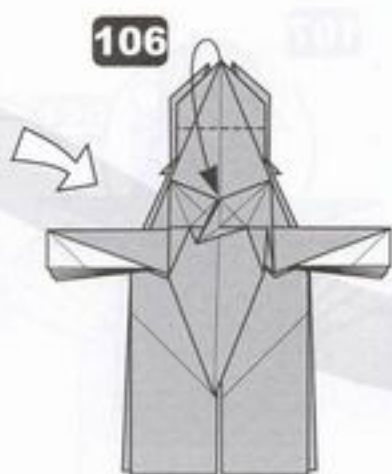


93





カドを垂直に立てる
次の図で円内を拡大



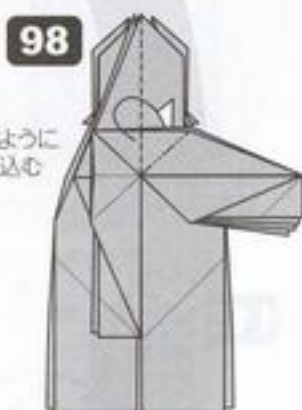
左側も工程96~101と
同様に加工する



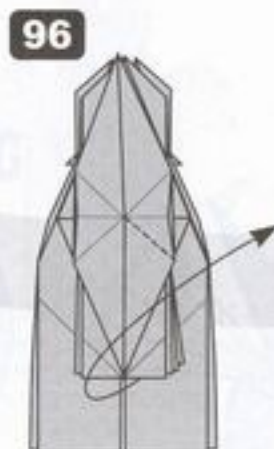
さらに3箇所を
奥側から順に押し込んで
上方に出す



一番奥側のヒダを
押し込んで上方に
出す

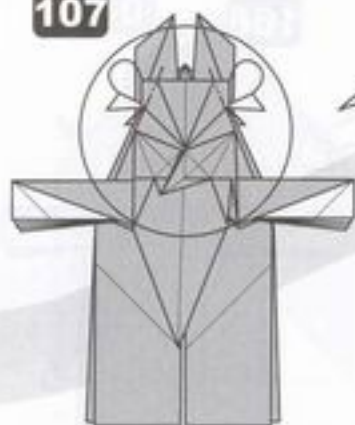


回転させるように
裏側へ折り込め



矢印の起点部分で
2枚めくる
つられてくる部分は
次の図のようにする

107



次の図で円内を拡大

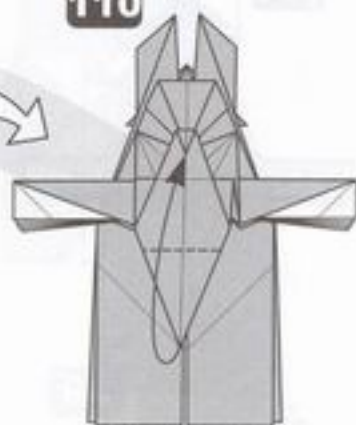
108

2層重なった部分のあいだを
ひらきながらカドを押さえつけて
平面にする

109

3分の1ぐらいの
ところで折る

110



カドに合わせて折る

113

回転させるようにして
引き上げる
白い部分はきちんと折るが
根元の部分はまだ
しっかりと折らなくてよい

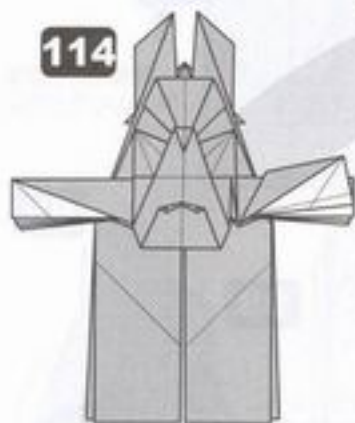
112

少しだけ折り返して
口らしくする

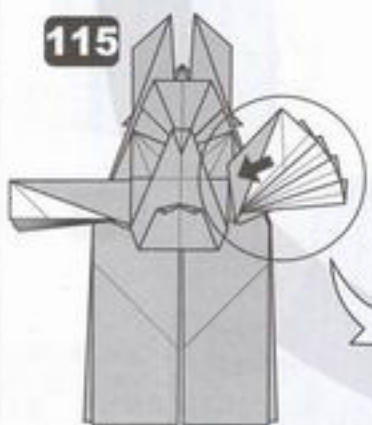
111

半分の位置で
裏側へ折り込む

114

残り3箇所
のヒダも同様に
回転させるようにして引き上げる

115

矢印の部分をしっかり
押さえつけて平面におちつける
次の図で枠内を拡大

116



117



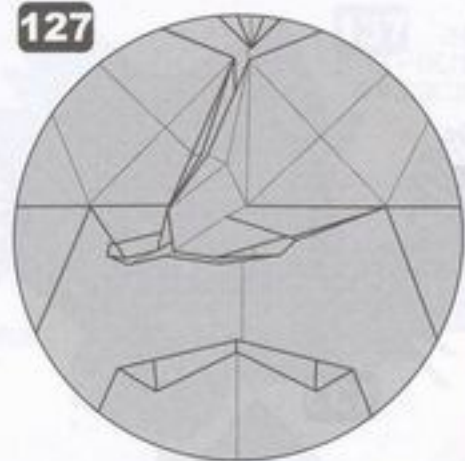
118



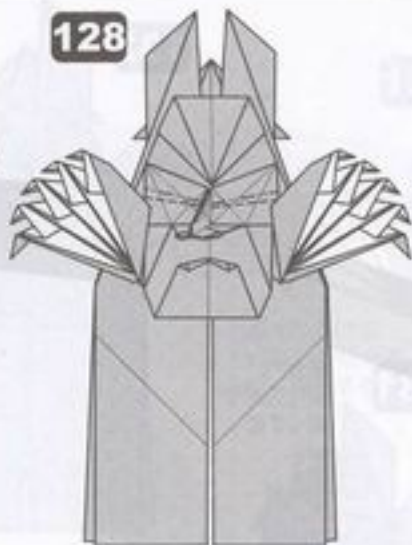
119

残りの
3箇所について
工程116~118と
同様に折る

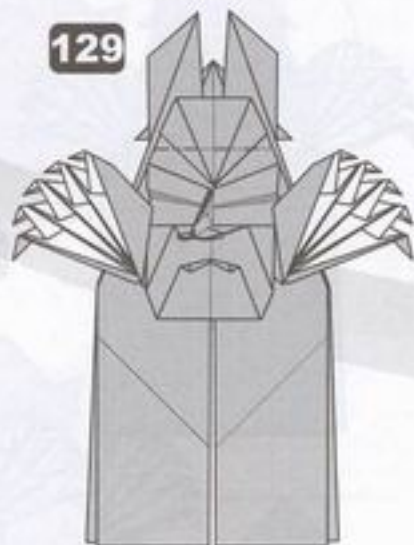
127



128

後ろ側へ
少し倒すように折る

129



126



真らしい形に整える

125

左側も工程124と
同様に加工する

124

3層重なっている部分の
真ん中の層を
回転させるようにして引き出す

120

カドの先端を
裏側へ少し折る

121

左側も
工程113~120と
同様に加工する

122

中央部のカドを工程106の
状態に戻して立てる
次の図ではこのカドの
周辺のみを拡大

123

すでに付いている線の位置で沈めるが
上方に立っている2層はclosed sinkに
そのほかの層はopen sinkにする
(7角錐の形に沈めるとよい)
次の図で先端部をさらに拡大

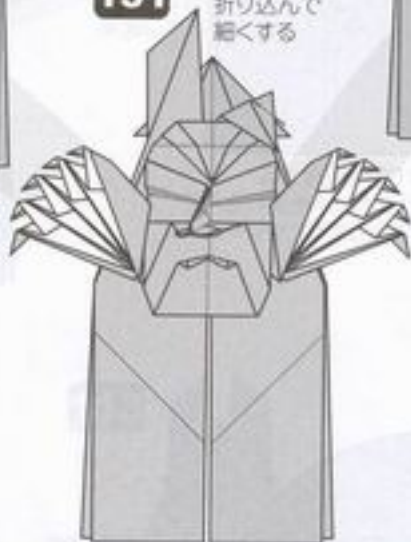
130

巻くようにして
手前側へ折る

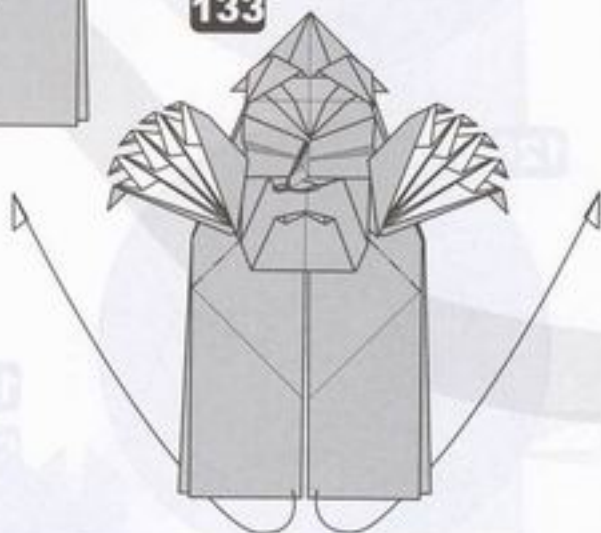
132

左側も
工程130~131と
同様に加工する

131

裏側へ
折り込んで
細くする

133



おり すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

浸透する折紙

Origami Permeates My Life

柏村卓朗

Kashiwamura Takuro

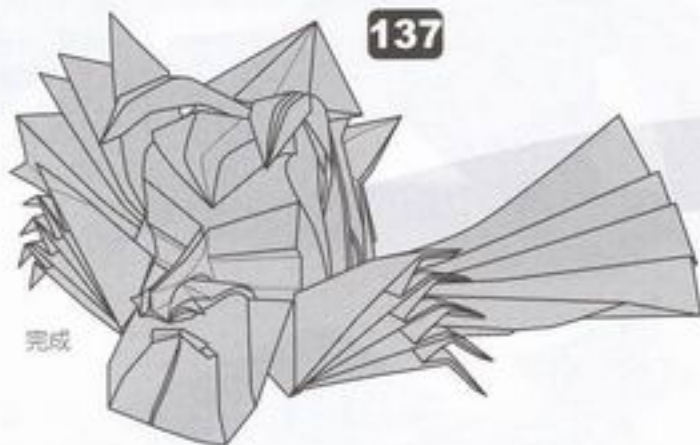
折る欲求は止まる所をわかりません。解決策として日常の細かな時間を折紙に費やすことにしました。手始めに、移動時を狙います。歩行時、バスの中、電車内。電車内での折紙経験はよく聞きます。移動中の折紙で難しいのは、机がない所でしょうか。初めの折りがうまく決まりません。それでも続けていくと、荒さは残るものの折れるようになりました。学んだ事は、基準角度での折筋は結構交わる(レブタイル的性質)、野外でのホイル紙は太陽の反射光が目当たる可能性があり危険である、タント紙頑丈など様々です。貴重な折紙タイムとなった移動時ですが、折紙に集中する余りに「歩行速度の低下」「降車駅を乗り

過ごす」「知人がいても気付かない」など問題が浮上してきました。特に歩行速度の低下は著しいと思われ、おばあさんに追い抜かれた時は我ながら驚きました。ゆっくり歩いて事故に遭わないのは良いのですが、移動がないがしろにされている感が否めません。まだまだ努力の余地はありそうです。

料理の最中も活用が可能と考えました。特に麺類をゆでている時間を用いれば、時間制限を課した折紙が楽しめます。自然にウェットフォールディングをしている時もあります。紙によっては色素が付着する場合がありますので、料理再開時には手を洗った方が良いでしょう。また、大きい声では言えませんが、眠気覚ましとしての折紙に気付いて以来、眠い授業での折紙は

有意なものと考えています。このような付加的な折紙が本来の活動を高める場合もあるという認識は折紙の普及において重要な役割を果たすのではないかと密かに感じている次第です。

主に活用する時間について述べてきましたが、スタイルも大事ですね。両手が空くようなカバンと指先がなくなっている手袋は便利です。折紙がスムーズに取り出せる状態であることも必須です。現在、折った作品を適当にポケットに入れてしまうので、手頃なケースを探している所です。いずれ折紙用コートとか作りたいですね。ここは普通紙、ここはホイル紙、そこを開くと作品入れて、そっちには展開図が!



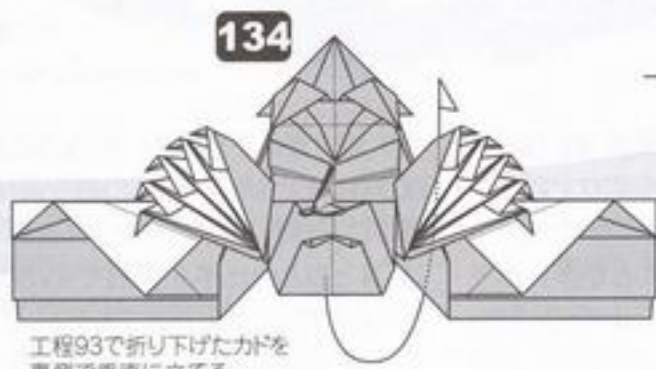
完成

137



力紙をひろげる
そのほかの部分も
細かく調整する

136



工程93で折り下げたカドを
裏側で垂直に立てる

134



裏側へ垂直に立てる

135

折紙三昧

49

Origami-Zanmai (This Origami and That)

ディオラマを作る

Georama to the Good

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

昨年秋に、会社の同僚にボランティアで折り紙をやってくれないかと頼まれ、20名ほどの小学生くらい（低学年から中学1年くらいまで）を相手に折り紙を使って3時間ほどの企画を考へることになりました。社員の5、6名が手伝ってくれるということだったので、2mの紙を5枚用意してもらい、拙作「ゴジラ」を予め特訓した社員をリーダーにして、子ども達を4チームに分けそれぞれ折ってもらうことにしました。そして、これまた拙作の「ロケットゲーム」を折って、ガムテープを付けたロケットを相手のゴジラにめがけて発射。上手く当たればゴジラにロケットがくっつく仕掛けで、チーム対抗をやることに。これが結構受けたのですが、普段あまり折り紙をしていない子ども達相手、しかも年齢差が大きいことも

あったので、個々の技量に左右されないよう心がけたのでした。もう一つ同じ意味で実験したかったことがありました。それは、折り紙を目だけで体験するというもので、子ども達には紙を持たせないで、何が出来るか言わないで、大きな紙でゆっくりと私が折り進める。そして、途中で何が出来るか考えてもらうことにしました。そう、その都度「見立てる」ことだけをやらせようというもの。実験の意図は、完成までの20分くらいの間、どれくらいの子供が見続けられるか、見たものがなんであるか確信できるタイミングがどれくらい違うかということ。作例（この時は拙作「15°リス」を用いた）と年齢層と皆の経験知などで異なるかも知れませんが、それなりに手応えを感じる反応を得ることが出来ました。

さて、この活動は広報部がコーディ

ネートしていることもあって、後日、広報部の別部隊が社内報の表紙を折り紙でやってくれないかと言ってきました。ディオラマ作りにかかるエネルギーは相当なものだと二の足を踏みつつも、コンベンションなどでスムーズに有休取得するためには、なるべくいろんなところで役に立っておく方が良いとの判断で、受けることに。今年の折り紙のテーマはディオラマを作ることとなりました。



展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第63回

キツネ

Fox

ホアン・ティン・クエット

Hoang Tien Quyét

Created : 2009.7.25

Paper Size : 35x35cm

Length: 21cm

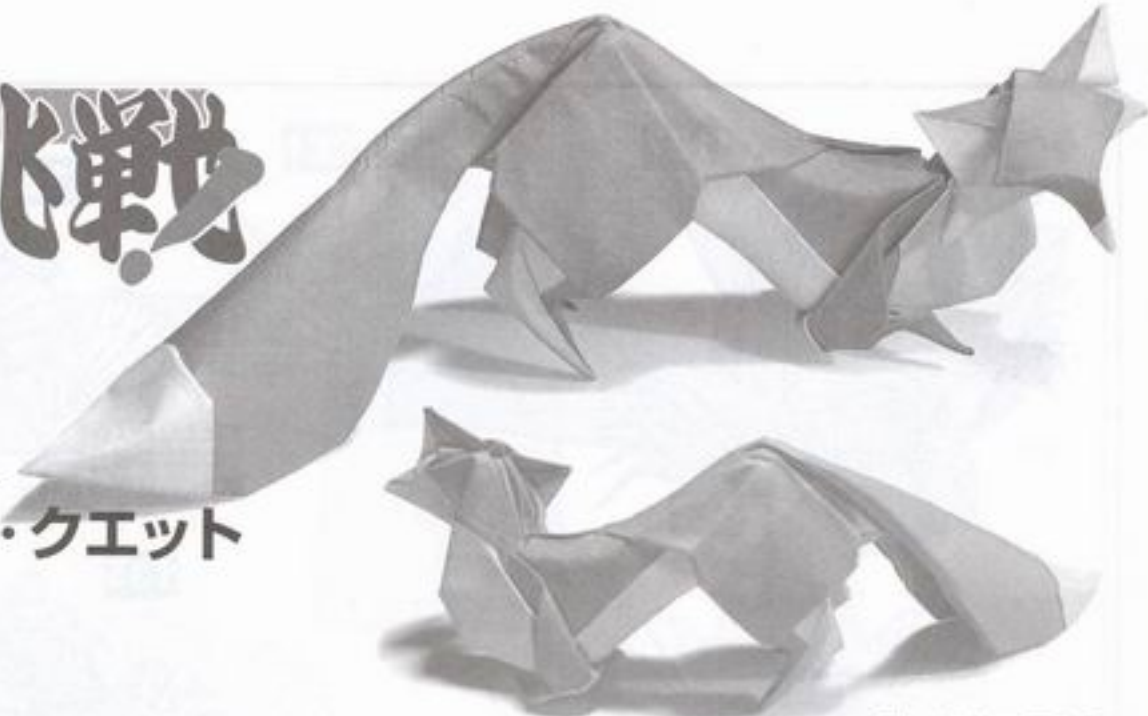


Photo by Hoang Tien Quyét

キツネというのは、多くの折り紙愛好家や折り紙作家に好まれている題材の1つです。吉澤章さん、ジャン・ディンさん、ロマン・ディアスさん、ジョン・モントロールさんなどの美しい作品を多く見てきた私は、自分でも創作できるかどうか試してみようと思いました。

まず、2009年1月にスケッチを描きはじめ、同時に簡単なパーツの創作を始めました。アイデアとして、色分けを使った作品を制作したいということがありました。しかし、当時の私はまだそれほど経験がなかったので、頭と尾を完成させ、紙の中で頭になる部分と尾になる部分の比率を計算して、作品を22.5度で折れるようにすることまでしかできませんでした。少しの幸運も手伝って、2月に子供のキツネを完成させることができましたが、より可能性のある別のプランを探す必要がありました。

この作品の創作にもう一度取りかかれるようになったのは、それから5か月してからでした。今回は、尾から始め、比率を変えて、後足と胴体に必要な領域を得られるようにしました。すべてが以前よりも簡単になったように感じられ、以前には作れなかったパーツも創作できました。胴体は1日で完成しましたが、後足はまだできませんでした。また、頭と胴体の接続方法も分かりませんでした。

さらに比率を変えて、頭と前足のための領域を広くしました。7月の終わりまで

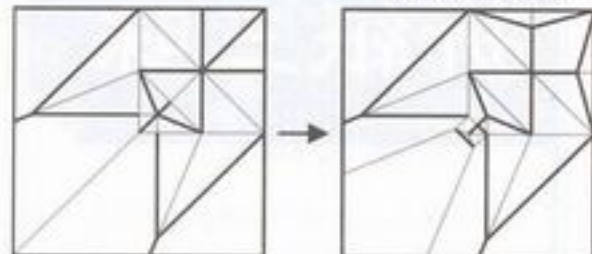
には最初の作品ができ、展開図を描きはじめました。写真の作品を折り上げたのは8月でした。私の最近の作品はウェットフォールディングをすることが多いのですが、これもウェットフォールディングで、敏捷な感じが出るように細部を仕上げました。まだ荒削りな部分も少しありますが、全体としては気に入っています。

展開図についてですが、このページをお読みのほとんどの方にとっては、折るのはそれほど難しくないでしょう。すべての比率は簡単に見つけられます。しかし、私が折ったときは、紙の大きさ(35cm)に対して比較的厚い(180gsm)紙を使ったため、折るのに少し苦労しました。もっと大きな紙か、もっと薄い紙を使った方がいいでしょう。形を保てるように、ティッシュホイルかウェットフォールディングを使うとよいと思います。

細かな表情としては、鼻を折って紙の裏を出すときに、顔を注意深く折る必要があります。鼻が長すぎるとオスのキツネのように

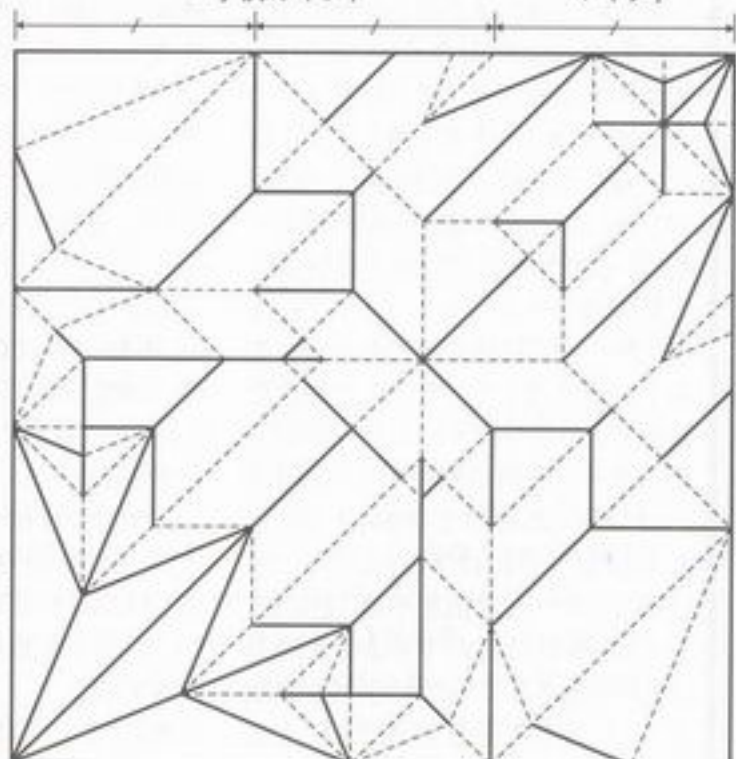
なり、短すぎると子供ようになります。また、耳にはできるだけ多くの紙を使ってください。かわいいメスのキツネを作るには、耳と頬との比率が重要です。尾は片側に曲げて、自然に見えるようにしてください。そして、なるべく余計な折り目をつけないようにしてください。

翻訳:羽鳥公士郎



▲子供のキツネ

▼キツネ



File-37

金沢隆史

Kanazawa Takashi

金沢隆史(かなざわ・たかし)=1987年8月26日生まれ。東京大学理学部情報科学科。おりがみ新世代の中心メンバーの一人。折り紙以外の趣味は散歩・パズル。ウェブサイト=<http://www.geocities.jp/fnkanazawa/index.html>



■いつ、どのようにして折り紙を始めたのですか。

あまりよく覚えていませんが、少なくとも、幼稚園に入る前から折っていました。

■創作をはじめたのはいつ頃ですか。

創作そのものは、中学3年の頃からです。はじめは、伝承の基本形を拡張したり、複合で作ったりしていました。今のように展開図を考えるというやり方で創作するようになったのは、高校1年の終わりごろからです。

■どのように創作をしていますか。

適当に紙を弄ってるうちにできてしまうということもあるのですが、基本的には、まず、折りたい対象の一番表現したい部分をどう折るかを考えます。次に、その折り方をするために必要な条件(カドの長さの比、カドの本数等)を考えます。そして、その条件を満たすように気をつけながら、角配置を決めていくというやり方で創作しています。蛇腹にするか角度系にするかは、折る対象のイメージによって決めています。

■あなたの作品は誰から影響を受けていますか。

神谷哲史さんや川畑文昭さん、桃谷好英さん、笠原邦彦さんなど、多くの方から影響を受けているとは思いますが、特にS太郎さんの影響が強いです。直接お会いしたことはないのですが、展開図を使って創作を始めたころ、目黒俊幸さんの掲示板と、S太郎さんの書かれた創作日記や掲示板サイトのSTR研究所で多くのことを学ばせてもらいました。

■例会やコンベンションに参加したの

はいつ頃からですか。またその影響等があれば教えてください。

例会には、高校2年の時に、神谷亮さんから誘われてから参加しています。コンベンションには、第9回から参加しています。影響は、いろいろ受けました。折り紙に関しては、他の方が折った作品を、直に見て、時には気になったところを聞いてみたり、アイデアの交換をしたりすることで、自分では思いつかなかったであろう、さまざまな折り方・表現方法を知ることができました。また、折り紙に関係ないところでも、さまざまな分野の方々と交流を持つことができ、視野が広がったように思います。

■現在、おりがみ新世代(若手折り紙愛好家のグループ)のウェブサイトの管理人をつとめています。管理人になって変わった事などありますか？

おりがみ新世代では、毎月お題をひとつ決めて、そのお題に関するものを折って投稿するというをやっています。次回のお題は、毎月の例会後に話し合っ決めていますが、管理人になってからは、このお題を何にするかを、普段から気にかけるようになりました。前管理人の勝田恭平さんがうまくまとめて下さっていた頃は、「自分の折りたいもの」、「他の人に折ってもらいたいもの」を無責任に提案することができましたが、いざ、自分がやることになると、時期にあったものであるかということや、コンベンションなどのお題と同じになって、投稿しづらくないかなど、気にかけるようになりました。周りの方々のサポートのお陰で、他には特に大きな変化はない気がします。

■受験の時には折り紙から離れていたと聞きました。詳しく教えてください。

これには色々ありまして……前にお答えしたように、高校1年から展開図を使って、創作を始めたの

ですが、それが楽しすぎて、模試などの結果が良くないにもかかわらず、最低限の勉強しかせずにいた時期がありました。志望校に行くには成績も厳しかったです。面談でその話が出たこともあり、受験中は、極力折り紙から離れることにしました。でも、実は、美術の時間に先生と交渉して、作品制作を折り紙でやらせてもらいました(笑)。後は、極力「折らない」「折り紙のことは考えない」を実行しました。友達からは、発狂したりしないか心配されたりもしましたね(笑)。

■食事が丁寧(遅い)と聞きますが、折り紙を折る時も同じなのではないですか？

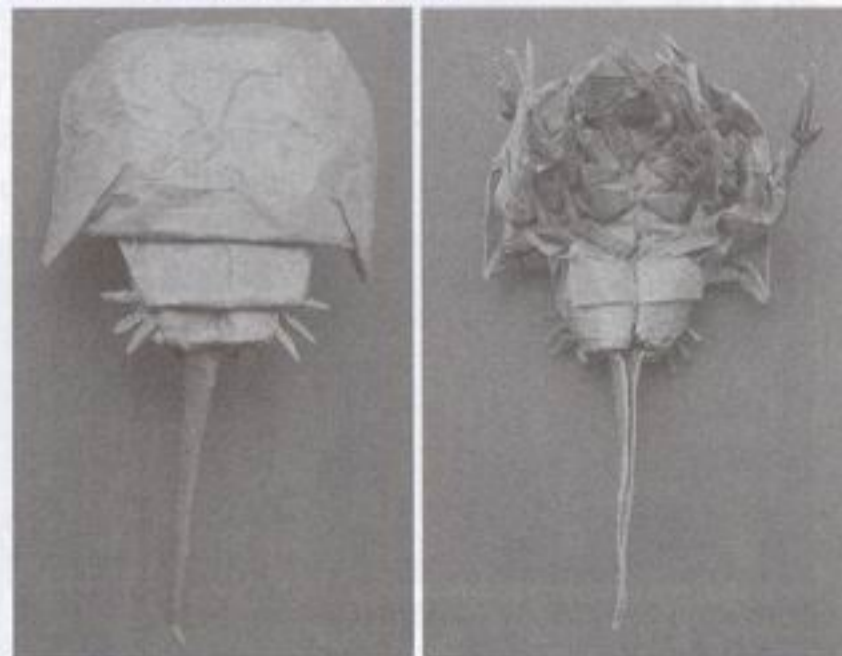
食事のときは、特に意識してないんですが……折りが丁寧かという点に関しては、本折りをする際には、ゆっくりと丁寧に折るように心がけています。しかし、試作などでは、雑に折っています。雑に折っても、折るのは遅いので、遅いという点は、同じですね(笑)。

■今度どのような活動をしてゆきたいですか。

管理人としては、新世代をこれからも、誰でも参加できる交流の場にしていきたいと思っています。個人的には、僕がいろいろな方からさまざまな折り方・表現を教えてもらったように、僕もコンベンションや例会の講習などを通じて、他の方々に僕の知っているものを伝えたいと思っています。



ヘラクレスオオカブト



カブトガニ

Rabbit Ear つまみおり Information

第11回折紙探偵団関西コンベンション

今年で11回目のコンベンション。例年通り神戸女学院大学で開かれます。特別ゲストは未定ですが、OriLandのシュマコフ夫妻(<http://www.oriland.com/>)に交渉中です。また、講師、折り図もあわせて募集中です。

期日: 2009年5月4日(火)・5月5日(水)(ともに祝日・振替休日)

場所: 神戸女学院大学文学館

参加費: 大人5000円、子供(2010年4月時点で中学生以下)4000円(折紙・折り図集つき)※宿の斡旋はしていません。

案内状などは、責任者立石の個人HP <https://sv34.wadax.ne.jp/~tatekoo-net/>で案内する予定です。郵便でご希望の方は、origami_kansai@kcc.zaq.ne.jpまでメールか、〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1-1-2-811宛に書面にて、お申し込み下さい。電話・FAXでの問い合わせには受け付けませんこと致しますのでご容赦下さい。

◆第5回折紙探偵団名古屋コンベンションレポート セス・フリードマン(USA)

日本の第5回折紙探偵団名古屋コンベンションに行くことになりました。ずっと前から日本に行きたかったのですが、最近日本語を勉強し始めたばかりだから、日本に行くことが出来るのは、とても嬉しかった。「この旅は素晴らしい勉強の機会になる」と思いました。

空港についたら、神谷さんが迎えに来てくれていました。その後、山口先生、韓国人達と旅行中のデンマーク人達と一緒に食事をしました。名古屋の有名な手羽先を食べることになりました。友達のMarcio・野口に聞いた通り美味しかったです。手羽先の正しい食べ方が箸袋に書いてあって、それはすごく日本的だと思ったので、「郷に入れば郷に従え」という諺を聞いたことがあったから、その食べ方にきちんと従いました。ホテルに戻ったら、夜更けまで、山口先生と韓国人達と話しました。皆さん英語が得意でなかったのですが、韓国人の一人は日本語がペラペラでしたので、彼と話してみました。この面白い遣り方で折紙作家 Seo Won Seon と話すことが出来ました。忘れられない経験でした。この1日目、折紙をあまりしていませんでしたが、良い

人と一緒に話したり、飲んだりするのが充分楽しかったです。

というわけでその夜、あまり寝れませんでした。翌朝も早かったのです。その朝起きたら、ロビーに行って、朝食を食べながら、北條さんと話すことになりました。僕の人生にこんなことが起こるなんて考えたこともありませんでした。僕が非常に憧れた折紙作家と話すことができたのは素晴らしいことだと思いました。

コンベンションの1日目、名古屋の新世代の折紙作家に会いました。僕の日本語はまだ上手ではないから、彼らと楽しい会話をすることが出来なかったのですが、皆は折紙が好きだから、何も言えなくても、コミュニケーションができます。また、折紙はいいなーと思いました。

その朝、日本語でスピーチをしちゃいました。すごく恥ずかしかったが皆は親切に僕を褒めてくれました。僕の日本語は下手だったのに。

作品を教えるのも楽しかった。アメリカより日本の方がコンプレックス折紙を折れる若い人がいっぱい居る。皆は頑張っていて、よく出来たキリンとチョウチョウウオを折りました。子供が僕が創作した

折紙で楽しんだりしてくれて嬉しいです。

コンベンションの1日目の夜は、時差ぼけのせいで、講習が終わったらすぐホテルに帰って寝ちゃいました。でもその翌日、時

差ぼけが殆ど治ったので、講習の後、皆とレストランに行きました。そして皆が日本語で話しながら、僕はやれる限りまで、参加しようと思いました。翻訳者がいなかったから仕方ありませんでしたが、その方が丁度よかったのです。神谷さんが話しかけてくれたおかげで非常に面白く折紙について話をする事が出来ました。それに「役に立たない」日本語を覚えました。きっと、これもずっと忘れないと思います。

1週間ぐらい日本に滞在しました。その間、大変お世話になりました。それに貴重な経験を得ることが出来ました。山口先生とおりがみはうすの皆様と名古屋コンベンションに参加した人に感謝します。またニューヨークやどこかで皆様とお会いしたいです。

(編注=このレポートは日本語勉強中のセス・フリードマン氏(21)が日本語で書いたレポートで、原文のまま掲載しました。)

◆「可能世界空間論」

四作家(グループ)で共同の、コンピュータグラフィックの周辺をテーマとした展覧会が開かれます。

可能世界空間論—空間の表象の探索、のいくつかExploration in Possible Spaces

会期: 2010年1月16日(土)—2月28日(日)

会場: NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] ギャラリーA

この中で、近々研究をしている、三次元折紙、自由変形ソフト、剛体折紙を展示します。目新しいのは剛体折紙で、2.5m四方で、厚板パネルを用いた構造を作っています。(館 知宏)



▼韓国からの参加者、韓国折紙協会事務局長のイ・ソンユン氏(右)とソ・ウォンソン氏(左)

▶日本語でスピーチをするセス・フリードマン氏。日本語は独学でアニメや小説で勉強すること、特に村上春樹が好きだと話していた



◆第16回折紙探偵団コンベンション折り図募集とコンテストテーマ

The 16th Origami Tanteidan Convention: Call for Diagrams and the Models for the Thematic Model Competition

開催日はまだ決まっていますが、夏の折紙探偵団コンベンションに向けた作品募集のお知らせです。準備期間を有効に使ってクオリティの高い作品を仕上げてください。

まずは、世界中の折り紙愛好家が楽しみにしている『折紙探偵団コンベンション折り図集』の折り図の募集です。6月の締め切りに合わせて、いまから作品を準備して下さるようお願いいたします。原稿の規定については「折り図集投稿マニュアル」をウェブサイトで配布し

ていますのでご覧ください。

<http://origami.gr.jp/>

そして4回目となるJOAS創作折り紙コンテスト。今回の特別テーマは「家族」です。また、前回に引き続き、干支部門と、自由題のはうす賞もあります。

・JOAS賞特別テーマ部門:家族

・JOAS賞干支部門:ウサギ

・おりがみはうす賞:テーマなし

※ひとりて3賞それぞれへ1点ずつ応募できます。

※応募は未発表の創作作品に限りま

す。コンベンション前に公開しないよう気をつけてください。

※JOAS賞はJOAS評議員およびコンベンション参加者の投票で決定します。はうす賞はおりがみはうすが審査し決定します。

※著作権のあるキャラクターものの応募については、権利者から許可をとったもの以外は審査の対象外となります。

※上記以外の詳細は募集受付開始時(5月末予定)にお伝えします。

Though the dates have not been fixed, this time we need to make a call for models for the coming 16th Origami Tanteidan Convention. We would appreciate many of you would present high-quality models; there is enough time for preparing this, isn't there?

First of all, we call for models and diagrams for the Convention Book, which the world's folders are waiting for, the deadline is in June, so please prepare diagrams as early as possible.

sible.

As for the regulations on application, please have a look at our style sheet in the JOAS web site (<http://origami.gr.jp/>).

Second, as for the 4th JOAS Origami Model Contest, the theme for the thematic competition has been decided on "Family". The Zodiac Theme of this year is "Rabbit". We also have the Origamihouse award which is non-thematic. Applicants can submit one model to each of the three competi-

tions. The models to be sent must be unpublished original creations by the folder, so please do not publish diagrams, crease patterns or models before the Convention. The JOAS Awards (thematic) are selected based on the votes of JOAS Board members and the participants of the Convention. The Origamihouse award is selected by Origamihouse. We start accepting models for the Contest in late May, so please wait and see.

<http://origami.gr.jp/>

Yoshino Issei Fund invites foreign origamists to our conventions.

Yoshino Issei Fund, named in commemoration of the talented origami designer, aims at exchanges of ideas with the world's origamists, supported by contributions from Tanteidan members, and we have invited foreign origamists to our conventions.

This time, we would like to invite two foreign origamists to the 16th convention in August 2010.

We are accepting candidates until the

end of the April. We accept both recommendations and direct applications. The selection committee will decide who we invite and announce the conclusion the May in the magazine, our web site and directly to the winners.

The selected guests must attend the 16th convention and instruct some models.

They must also supervise an exhibition at Gallery Origami House.

Yoshino Issei Fund offers each of them up to 200,000 yen for traveling and staying expenses. We also advise on their stay.

Send us your application with the candidate's name, age, address, telephone number, fax number, e-mail address, and some works (photographs of the model, diagrams, or books).

Yoshino Issei Fund

c/o Gallery Origami House

1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku,

Tokyo, 113-0001, JAPAN

Email: webman@origami.gr.jp

◆折り紙男子の青春コメディー! 講談社「Kiss」連載中

内気な16歳の主人公・相田義経は、折り紙を趣味としているが、その暗くてマイナーなイメージから、後ろめたい日々を送っている。そんな時、体育会系・折り紙初心者の宮本と、学年トップの頭脳を持つ布庵の3人に会い、勢いで「折り紙同好会」を結成することになる。何もかもバラバラな3人の元へ、「全国高校折り紙天下一大会」の申し込み書が届く。地区予選で戦う高校の折り紙研究会は強者ぞろい。3人は特訓を始めるが、何をやって

も上手いかわからない。果たして地区予選の行方は如何に?!

「ヤマありタニおり」は、折り紙を知らなくても十分面白いけど、折り紙を知っている人には3倍面白いギャグマンガ。折り紙は特に詳しくはなかったという、著者である日下さんの言葉に驚かされます。

2009年12月に発売された第1巻には、別冊「Kiss PLUS」に掲載された読み切り2本と、本誌連載第1回~3回までを収録。12月10日に発売された24号には、「名



名古屋コンベンション講習会にて、左から日下直子さん、担当編集者の助宗さん

古屋で開かれた折り紙コンベンションに行ってきました!まさに神業(紙ワザ)でした!と、日下さんのコメントが。

「ヤマありタニおり」第1巻単行本を、サイン入りでプレゼント。詳細は38ページ。

◆折紙美術館 09 in 駒場 武田直樹

去る11月21日～23日に開催された、東京大学学園祭「駒場祭」。我が折紙サークル「Orist」も2度目の出展を果たした。

今年は部員の折った作品を創作・非創作併せて100点以上展示。入口に近い恵まれた場所だったこともあってか、非常に多くの方に来場頂いた。

恒例となっている巨大ユニット作品としては、宮崎駿監督の映画より「天空の城ラピュタ」を製作。約3000枚組、中央に発光ダイオードを仕込むなどディテールにも凝った、部員一同による力作だ。土壇場の組み立てミスで初日は未完成のままの展示となったり、自重で垂れ下がる城壁を必死に誤魔化したりとトラブル続きの城だったが、駒場祭前日にその「ラピュタ」がテレビ放映されたこともあり(ちなみにまったくの偶然である)、来場者の方々には好評を頂けた。

また、展示スペースの他に、来場者が

自由に折り紙をすることができるフリースペースを設けたが、これが予期せぬたくさんの刺激を生んだ。たとえば、折り紙が大好きらしい少年やおばあさんが開催期間中通い詰めで折り続け、普段出来ないふれあいをもたらしてくれた。また、折紙創作を独学する高校生・大学生達と新たに出逢い、新鮮な意見交換をすることができた。紙と本を提供し来場者に楽しんでもらいたいと作ったコーナーだったが、むしろこちらがたくさんの収穫を得ることができたように思う。

3日間の開催期間は大盛況のうちに終わり、「Orist」は人気展示投票で学術芸術部門2位を受賞。賞品として大量の紙、もといポケット六法5冊を獲得した。理系が大半を占める部員達は書物としてのそれに興味を持たないようで、六法たちの今後の処遇が気になる今日この頃である。

このような展示だけに留まらない多く

応募先住所:113-0001東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛
メールアドレス:info@origamihouse.jp



▶たまし舟が目印の第1巻表紙カバー

◀裏面にも折り紙

土戸英二/作品:内裏びな

東海友の会※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟 204・205 / 参加費=大人200円(中学生以下は100円) / 時間=13:00~16:30

- 2月13日(土) / 講師:未定 / 作品:未定
- 3月20日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

九州友の会※折り紙は各自持参

●2月28日(日) / 会場=久留米市石橋文化センター研修室B / 参加費=500円(中学生以下は100円) / 時間=13:00~16:00 / 講師:川村みゆき / 作品:ユニット作品、山北克彦 / 作品:パンダ

●3月28日(日) / 会場=佐賀県立アバンセ4階第3研修室B / 参加費=500円(中学生以下は100円) / 時間=13:00~16:00 / 講師:浜田勇 / 作品:兜・他

の人との活発な交流は、学園祭特有の自由さ・にぎやかさがあってこそ。今後もサークルという枠ならでの活動を通し、折紙の輪を広げていきたい。



JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

2月20日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00

3月20日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00

アットホームな雰囲気のある教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「ある折り紙作家の教室」

3月28日(日)・4月11日(日) / 講師=神谷哲史 / 参加費=3,000円 / 11:00~16:00 / 作品=アマガエル(予定)

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。上記方法が困難な場合は電話でも受け付けます(03-5684-6040)。

編集後記

■今までは違った動きを感じる問い合わせが多い。■仕事に関してもそうだ。■思いもよらないところからの依頼があったりする。■漫画の連載は仕事ではないが、思いもよらない方面でもある。■今まで、漫画やTVドラマなどで、取り上げられることは幾度となくあった。■それらは決して主役ではなかった。■ところが『ヤマありタニおり』では折り紙が主役だ。■折り紙人にとっては何となく嬉しい。■折り紙がブームなのだろうか。■過去にも何度となく、折り紙がブームだと言われたことがあった。■それは緩やかな上昇カーブを描くものであった。■急上昇を描くカーブは怖い。■その後に来るものは急下降だ。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2010年1月25日発行 第20巻5号 通巻119号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

プレゼント

『ヤマありタニおり』第1巻発売を記念して、抽選で5名様に著者サイン入り単行本をプレゼント!! ご希望の方はハガキ又はメールにて、お名前、ご住所、電話番号と年齢を明記し、「ヤマありタニおりサイン入り第一巻希望」とお書き頂き、右記のアドレスまでお送りください。締め切り:2月28日 当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール / 参加費=大人500円(中学生以下300円)

講習会=14:00~16:00 / 研究会=16:00

●2月6日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

●3月6日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F

参加費=大人500円(中学生以下は200円)

時間=10:30~12:00

●2月7日(日) / 講師:未定 / 作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

会場=城北市民学習センター / 参加費=500円 ●2月28日(日) / 時間=10:00~12:00 / 講師:梅本吉広 / 作品:キャンデー

ユニット1:2型 / 13:00~16:00 / 講師:

■ORIGAMITANTEIDAN / No.119 / Published on 25, January 2010 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "SHIBARAKU-HEAD" Produced by Hojyo Takashi: Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.

For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第15回折紙探偵団 折り図集vol.15

コンベンション 日本折紙学会 編/2,000円/送料420円
B5判/全256頁/56作品収録

好評発売中!

ヨークシャー テリア: 西川誠司、猪: 川畑文昭、トロボス: 川村みゆき、紅葉: 露誠志、ケルベロス: 神谷哲史、リス: シュテファン・ペーパー、フクロウ: グエン・フン・クオン、チョウ: ジェイソン・クー、ダラー・コイフィッシュ: ウォン・パーク等、国内外56作品を収録

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第14回折紙探偵団 折り図集vol.14 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作41作品を収録
第11回折紙探偵団 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円	B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録	

※第1回~第9回及び第12回、第13回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

「折紙探偵団」専用ファイル 好評発売中!!

変形B5判/箔押し(緑)ロゴ入 ビンが7本ついた改良型
雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)と、会員特別配布物(1冊)が
収納可能!

1冊750円 送料: 1冊250円(合計1,000円)
2冊350円(合計1,850円)
3冊470円(合計2,720円)

※定形外郵便で発送します
(書籍・紙製品とは別発送です)

書籍 2冊の送料は530円

複数 3冊の送料は670円

送料 例外:「折り図集」だけを3冊の場合のみ530円
(例:折り図集11,14,15を各1冊)

上記以外の場合はお問い合わせください。書籍と紙製品は別発送となります

GALLERY ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月~土 12時~15時 土・日 10時~18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!

(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>

※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

商品名	送料	内容
折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の 際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律	35×35cm/10枚入/70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)	1~2セット 440円	恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送)送料には梱包材代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご注文頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希
望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便用紙入れのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

寿司ネタ9種類&デザート付！
寿司おけもお皿もお箸もみんな折れるよ！

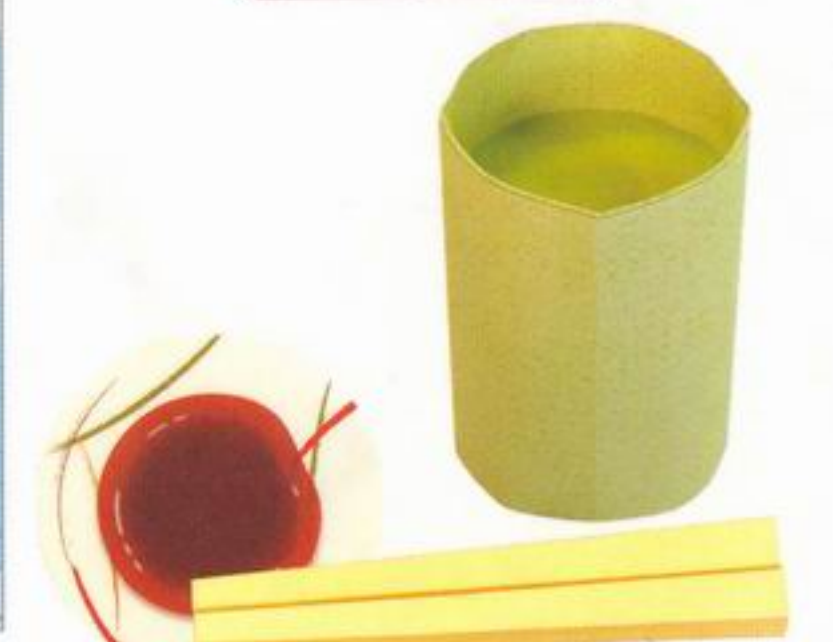
おいがみ



¥300
(税抜き)

回転寿司

お持ち帰りも
ごさいます！



 **株式会社ト-ヨ-**
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所

日本折紙学会発行 定価 635円(本体605円)